核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/activities/blog2013

Youth Blog 2013

4月22日から5月3日にかけて、スイス・ジュネーブで、2015年核不拡散条約(NPT)再検討会議第2回準備委員会が開催されます。

ナガサキ・ユース代表団もジュネーブ入りし、会議の傍聴や様々な活動に参加します。会議の全期間、参加することは出来ませんが、8人それぞれが独自のプログラムを組み、その活動報告を日々行います。

Ken's Blog	Yuu's Blog

Yuko's Blog	Anna's Blog

–

Yuno's Blog	Shoki's Blog

Fangxin’s Blog

Haruka’s Blog

Youth Blog

Nagasaki Youth DELEGATION

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/activities/blog2013/ken

Ken’s Blog

Wednesday, 1 May

私にとってのジュネーブ最終日です。 最後のほうになってきて、朝のaborition caucusに参加する人も少なくなって来ました。皆それぞれすることがあったり、帰国したりしているのでしょうか。

本会議自体も10：00−13：00のところが、12時前に閉会となったり、午後も18時までのところが、16時半前には終わりました。発言を求める国が無ければ基本的に閉会というスタイルです。

私個人としては、今日はWHOを訪問させて頂きました。WHOの本部は、国連のあるバス停からバスで2駅とすごく近いところにあります。野崎さんという厚生労働省から出向されている方が丁寧に案内してくださいました。WHOの果たす役割や、課題、これまで関わってきた日本人等について知ることができました。帰りにはWHOのbook storeでお買い物。私のiPadがWHO仕様になりました。

【総括】
今回の13日間の滞在で多くの事を学び、感じることができました。ジュネーブに来る前には長崎にてイベントも行いました。1周間の集中講義もありました。

我々がここに持ってきたテーマは、「抽象的な問題ではなく、身近な問題である」ということ。

私個人の目標は、
・ネットワークを構築すること
・現場で主体的に学ぶこと
・帰った後に還元すること
この3つでした。

まず、我々のテーマに関していえば、我々自身が出発前に比べて、より“身近”な問題としてとらえられるようになったということがあります。現場で直に感じることによって、当事者意識が高まりました。またそれと同時に、簡単に帰ることのできない難しさ、我々がやりたいこと、多くの人が考えていることと日本政府の決定の間にある矛盾も感じました。「安全保障を優先した結果、”under any circumstances”という言葉に日本は賛同できなかった」非人道性に関する声明です。賛同している国も、日本も「核なき世界を目指す」と言っていることは同じでも、まとまることができない、大きな課題があります。

ヨーロッパのユース達と話すと、彼らは、「想像や分析によって、核兵器の悲惨さを把握している、日本で直接感じることのできるあなた方はうらやましい」と言います。まさにその通りで、”身近に”感じることに関しては日本がもっとも近しいところにいるので

す。

私たちのワークショップで、ディスカッションをした時にも、海外と日本の平和教育はまるで違います。原爆のことは知っていたけど、このようなdetailは聞いたことがなかったと言ってくれる若者が多くいて、人数こそ多くは集めることができなかったものの、やってよかったと心から思いました。

私個人に関して言うと、1つめ、2つめの大部分は達成できたのかなと思いました。結果的に。ただ、前半のたくさんの人がいる時から積極的に動くことができていれば、もっと多くのネットワークを築くことができたかなともおもいます。学ぶことに関しても、毎日の本会議の流れをReaching Critical Willが出しているReviewで追っておかないと、様々な人とのディスカッションの際に話に全くついていけなくなります。

また、特に若者と話すときに多かったのですが、「日本の姿勢に関してどう考えている？」と聞かれることがしばしばありました。そこで、日本の姿勢を把握していなければ信用を失うことになりますし、明確な意見を持っていなければ対等にディスカッションできません、また相手の国の背景まで知っていると、さらに実のある話ができます。毎日が学ぶことの連続です。しかし、今目の前で起こっていることであり、今すぐ必要な事でありましたので、スポンジのように吸収できたのかもしれません。

最後の”帰った後に還元すること”に関しては未だ明確な方法が見つからないのが正直なところです。帰国前から、自分はジュネーブで一体何を学び、何を感じたんだろうという振り返りを始めたのですが、それをいかにして、人に伝え、問題意識を持ってもらうのかは一苦労です。1つとしては、”私たち目線”での捉え方、矛盾やジレンマをダイレクトに伝えるというのはアリかなと思います。海外の若者を日本に呼んで、彼らとのディスカッションをする、それによって、外国の若者がこれだけ活発に活動しているんだ、というのを感じてもらうのもいいかなと思いますが、ここには予算的な問題も発生しそうです。もちろん、インターネットの時代なので、安定した環境さえ整えば、skypeを使えば、時差なく話ができます。

最後に、今回の準備〜訪問を通して浮かび上がった新しい課題があります。それは、来年のユースがどんなふうにして、来年の会議に関わるかということです。今年は第一期生ということで、”お客さん”に対する暖かい目で迎えて頂きましたが、私たちは大学生であり、それなりの、知識、姿勢によって”評価”されます。この事業が継続的に行われていくためにも、海外のユースたちとのネットワークを保持する等、来年のユースが積極的に関わる土壌を整備するのも第一期生として行った我々の役割であると認識しています。

今回多くの方々のご支援をいただきまして、私たちは無事ジュネーブへの訪問を終えることができました。Facebookを通しても、多くの皆さんに見ていただいていることを遠く離れたジュネーブで感じることができ、とても心強く、また身の引き締まる思いでした。今回応援していただいた方々に、厚く御礼を申し上げます。

(ナガサキ・ユース代表団(国連欧州本部前にて))

Go back to top

Tuesday, 30 April

クラスター3issue

本日午後よりクラスター3（平和目的の核エネルギーの開発研究、生産、利用への条約締約国の奪い得ない権利に関連する条項、及びその他の条項の履行問題）の議論が始まりました。当然のことかもしれませんが、フクシマの事故に関する言及が多く見られました。原発推進国の意見としては、あの事故から多くの事を学び、原子力のさらなる安全性を追求していくというものでした。

日本、アメリカは2013年6月に開かれるInternational Ministerial Conference on Nuclear Power in the 21st Centuryを 楽しみにしていると発表していました。個人的に、日本に関して言えば、フクシマから多くの事を学びこれからさらなる安全性を追求していくという発表を日本はしましたが。危機管理において世界から多くの信頼を失い、次の年には2基を再稼働した国であり、事故から2年、日本がどれほどの信頼回復をできたのかは懐疑的です。福島原発事故調査委員会からのレポートは日本語でも英語でも手に入ります。

夕方には、レベッカ・ジョンソンさんとお話することができました。日本にも来られているのでご存じの方も多いかもしれません。英アクロニム軍縮外交研究所所長、ICAN（核兵器禁止国際キャンペーン）の副議長を務めていらっしゃる方です。

冒頭、ヨーロッパの若者がどうしてこのような平和に関して関心が高いのかという疑問に対しては1980年代の方がもっと関心が高かった、冷戦 真っ只中で核戦争が起これば、自分たち自身が死ぬ、あの時代の若者にとても”personal to us”な問題だったのである。そして今、ICANがあの時のような高い関心を持ってもらうように活動しているとのことだった。

日本の若者として何ができるだろうかという質問に対しては、安全保障と核兵器の関係に関する理解を深めて共有すること、核兵器なき安全保障について議論すること等を提案された。

”安全保障と核兵器”の関係性に関しては私自身ここ数日ずっと考えてきたことであった。というのも、日本が「非人道性に関する声明」に反対した理由こそが、日本の安全保障を考えた故のことだったためである。安全保障を考えれば核抑止が必要であるという意見と核の存在こそが安全保障を脅かすものであるという意見がある。帰国後この件に関してさらに理解を深めたい。

私の今回の参加の目的としてネットワーキングがあるのですが、ここにきている日本以外の若者にたいして、情報共有のためのメーリングリストその他のプラットフォームの構築の提案をしています。

若者としての活動が継続的に行われるためにも、またこれから入ってくる若者にとっての敷居をさげるためにもそのようなネットワークが必要だと考えています。

先週のニュージーランド大使の”You are the youth, you are the future.”という言葉が強烈に残っています。若者が動くこと、若者を動かすことが我々の責務のように思います。

(レベッカ・ジョンソンさん(左))

Go back to top

Monday, 29 April

2週目が始まりました。

今のトピックはとりわけ中東非大量破壊兵器地帯に関する話です。ヨーロッパのユースたちが興味を持っているのもあって、私も勉強しています。Free Zoneの考えはもちろん私たち日本にも大いに関係の有ることで、北東アジア非核兵器地帯の実現か否かは私たちにとって身近な問題と言えます。

今日の大きな出来事はエジプトによる残りの会議のボイコットです。2013年にヘルシンキで開催予定だった中東非大量破壊兵器地帯に関する会議が、地域国家への断りなしに勝手に延期にされたことに対する反発が主な理由なのでしょうか。2013年はじめにアラブ諸国でこの会議自体に参加するか否かが協議されたそうですが、結果として参加をし、その上で強い不信を表明し、ボイコットするというのは、一種の戦略なのだろうと思いました。

Go back to top

Saturday, 27 April

27日土曜日です。

怒涛の一週間が過ぎ、ゆっくり週末を過ごしたいところですが、今日は先週の小学校と同じ場所にある中学校の訪問です。

内容としてはほとんど変わらないものでしたが、前回の紙芝居から今回は変更して、下平作江さんの証言を読ませていただきました。それに加えて前回同様ICTを使って原爆の爆発の大きさをvisual imageで紹介しました。

被爆者の高齢化が進む中で、直接お話を伺う機会は減ってきています。その中で、次の世代がどのようにその悲惨さを伝えていくかが課題です。このプロジェクトリーダーである、下田杏奈さんは教育学部4年で、平和教育のゼミに所属し、様々な方法を検討してこの授業の準備をしてくれました。

杏奈さんは帰国しなければなりませんでしたので、長崎大学教育学部を卒業された佑布子さんが授業をしてくれました。

学校の先生からの反応はとても良く、本当によかったなと思いました。生徒さんたちの反応はとてもダイレクトで、様々な想い、意見をきくことができとてもいい機会でした。

Go back to top

Friday, 26 April

5日目です。

毎日のことですが、朝からGovernment Briefing for NGOs。今日は、今回の議長、Cornel Ferutaさんでした。Cornel Ferutaさんとは、昨日直接お会いしてお話しておりました。

お昼休みにはニュージーランド大使とのミーティング。ニュージーランドは、西側諸国として初めて非核地帯を法制化した国です。

前回はラテンアメリカ非核地帯の実施機関であるOPANALの事務局長とお会いしましたが、なぜこのように非核地帯に注目しているかというと、ヨーロッパ・ユースの注目の先がそこにあるからです。

実は今回、準備期間が短かったことや、私達自身のキャパシティの問題もありまして外国の代表者とのコンタクトはとっていませんでしたが、ヨーロッパ・ユースにお願いして、来年につながるかもしれないからということで、一緒に行っています。

ヨーロッパ・ユースの最大の注目は、中東アジアにおける非大量破壊兵器地帯(WMD)です。2週目にこのissueに関して話が始まります。イラン、イスラエル、ヨーロッパ諸国これらの国々のせめぎ合いです。Detailに関しては私自身も勉強途中です。詳しく知りたい方は、是非RECNAのNPT BLOG 2013をごらんください。

ニュージーランド大使からのメッセージは大きく２つ。
“市民社会がプッシュすること。”
“You are the youth, You are the future.”

その後、GCSP: Geneva Centre for Security Policyへの訪問です。こちらは、1995年にヨーロッパの安全、平和を構築するべくして設立されています。スイスをはじめとした国家の予算が入っていますが、独立した機関です。若い人のトレーニングから、DDR（武装解除）様々行われています。近年ではヨーロッパだけでなく、中国、フィリピンも加盟しています。日本は参加していません。

トレーニングプログラムには原則各国1名、約9か月間のトレーニングです。基本的に政府の推薦が無いと入れません、北朝鮮からの参加者が2名いましたし、日本の政府から派遣された人もいましたので、毎日が外交交渉のような授業なのでしょうか。

その後、西田さんという今回の会議の日本の政府側の方とお会いしました。

今回の大きな収穫は、NGO側のたくさんの人に会えたと同時に、政府側、日本だけに限らず、の多くの方々とお会いできたことです。両方の話を聴くことによって、客観的視点から見ることができました。また、安全保障をはじめとした広い知識があればもっと多面的に見ることができたのかなとも思いました。

夕方は、今日が全員揃う最後の日ということでparty。共同代表の大田くんが今日が誕生日ということで、サプライズも。皆考える事がすごく多かったようで、若干消化不良気味。私はというと、学ぶことは日本でもできたかもしれません。国連の文書はPaperlessでネットにアップされますし、NGOからも日々、新聞のように文書がでます。

ただ、実体験、感じることはここでしかできませんでした。もっと、勉強しなければ、もっと深く考えなければ、というのはここに来たからこそでてきた想いかなと思っています。

また来週も有りますので、来週も頑張ります。

(コーネル・フェルーツァ議長(ルーマニア大使))　(国連前でメンバー全員と)

Go back to top

Thursday, 25 April

4日目木曜日です。

午前中はPeace depotのside eventのお手伝いをさせていただきました。北東アジアの平和に関するもので、長崎市長、広島市長に加えて今回は中国、ロシア、韓国、モンゴル、日本の政府関係者も来てくれました。これはPeace depotとしては前例のないことで、素晴らしいファシリテーターであるMaria Kimさんによって、全ての政府関係者がコメントをしてくれました。私たちユースとしてのコメントもさせていただき、とても貴重な機会だったと思います。

このセッションが終わってすぐに、NAPFのメンバーとBANgのメンバーとラテンアメリカおよびカリブ核兵器禁止条約（The Treaty for the Prohibition of Nuclear Weapons in Latin America and Caribbean）の実施機関であるOPANALのジオコンダ・ウベダ事務局長とのミーティングに参加しました。この条約はキューバ危機を契機にラテンアメリカ地域における非核地帯を作る条約です。

この後に、いくつかの非核地帯に関する条約が出来ていますが、この条約が他と違う、進んでいることは、核兵器保有国であるP5やもともとの宗主国に対してのアプローチを行い、それに批准させていることです。

附属議定書1では、ラテンアメリカ地域に属領をもっている旧宗主国に対して、この地域での非核化を求めた。イギリス、オランダが1971年までに批准し、ついでアメリカ合衆国、最後に1992年にフランスが批准した。
附属議定書2では、核保有国に対して、条約加盟国地域での核兵器の使用や核兵器による威嚇を行わないことを求めている。核保有国五大国については、1974年までにイギリス、アメリカ、フランス、中国が批准し、ソ連も1979年に批准を完了した。

その後、今回の会議の議長にお会いしました。私たちNagasaki Youthのメンバー、ブラジルの学生、ドイツの学生は30人もいました。議長の若者に対する期待はすごく高く、インタラクティブな時間を過ごすことができました。

印象的だったのが、「軍縮をすすめる唯一のフレームワークがこのNPTである」という言葉です。軍縮をすすめる上でこの会議の持つ重要性を感じました。

内容が、前半の非人道性に関することから、非核地帯というトピックにシフトしてきています。非核地帯が実現できるのは核兵器保有国がその地域に無いからだという意見をいう人もいますが、中東に関しても話は進もうとしています。small stepなのかもしれませんが、たしかに進んでいます。

(議長（写真左）に私たちの活動を伝える、 ファンシン（写真右側）)	(ピースデポのサイドイベントでユースからのコメントをする、 斎藤さんとファンシン)

Go back to top

Wednesday, 24 April

3日目です。

朝はstatements by NGO
長らくの市民社会の努力によって”勝ち取った”本会議の中での時間です。「Rethink Nuclear Weapons」というタイトルで始まったパネルディスカッションの後、長崎市長、広島市長、被団協の藤森さんがstatementを読み上げた後、Youthとしてのstatementを Nuclear Age Peace Foundationと Ban All Nukes generation(BANg)のメンバーが読んでくれました。光栄なことに私たちもstatement作成に関わらせていただきました。文書はこちら。

また、連日注目されていた非人道性に関する声明への日本の参加に関しては、残念ながら今回日本の参加は実現されませんでした。NHK worldで報道もされていたようですが、軍縮会議日本政府代表部に対して「No more Nagasaki, No more Hiroshima, No more Hibakusha」という抗議がされるのは、非常に残念なことです。本来であれば、日本はあらゆる方法を駆使して、核兵器が二度と使われないように世界をリードすべき国だと思います。

ただ、この件の報道に関しては、若干の違和感を覚えます。それは現地で、市民社会の声と政府側の声を聞いているからでしょう。ここでまさに、目の前で外交が行われているというのを肌で感じています。

夕方には、天野大使、長崎市長、WHOの野崎さん、外務省の望月さんと一緒にお食事をさせていただきました。その中で印象に残ったのが、「決断ではなく、選択である」という言葉です。決定を下す時、人は常に様々な側面からものごとを考え吟味し、精査し、”選択”しているこのことは非常に印象的でした。

これまではマスメディアによる2次情報によって判断をしてきましたが、1次情報によってこのような決定の背景を深く追求できたことはとても貴重な機会だと思います。

明日は、こちらの若い方々と今回の会議の議長にお会いしてきます。

Go back to top

Tuesday, 23 April

本会議2日目にして、早速我々のワークショップの日が来ました。

その前に、午前中に表敬訪問させていただいた国際赤十字（ICRC）について報告します。ICRC本部は国連と道を挟んだ向かい側にあります。

今回長崎市長・広島市長が表敬訪問するにあたって学生も参加可能とのことで、同行させていただきました。個人的には赤十字と少し関係があります。というのも、日本赤十字の創始者である佐野常民と同じ町の生まれです。

現在の核兵器廃絶に関するmovementとして、非人道性がありますが、赤十字は長らく人道的な面から言及しており、2010年に強くstatementを発表したことが、この流れを作ったと言っても過言ではありません。また今回の訪問で協調されていたのは、次のメキシコでの会議(2014年4月)までに何ができるのか、そしてその後に実践的な意味で何ができるかという点でした。こちらに来てから、今、そして次のメキシコまでに何ができるのか、起こるのかということにフォーカスが当てられている中で、ICRCがこれまで長らく訴え続けてきたこと、そして、これから先の長いスパンで考えてることを感じました。

また、毎朝Abolition caucusというNGOのmeetingに参加していますが、連日「人道的側面に関するstatement（今回は南アフリカから発表されます）」に日本が署名するか否かについて活発に意見が交換されています。昨日のblogでも言及しておりますが、是非とも日本には賛同していただいて、核兵器の非人道性について唯一の被爆国としてのぶれない姿勢を世界に見せて欲しいと思います。

さて、ワークショップに関してですが、若い世代がやるとのことで、ドイツをはじめとする若い学生が多く来てくれました。会場は300人入りますので、もっと多くの人に来てもらいたかったという思いもありますが、また次の機会にさらに多くの人と、さらに濃い内容でできればと思います。

海外の若い人と話して必ず聞かれるのは、「これからどうするのか？」と「日本がサインしないことに関してどう思うのか？」ということです。深く考えていないと議論できません。そして、日本のことをよく知らないと信用を失います。少しずつではあるかもしれませんが、「日本を外から見る」ことができるようになってきてるように思います。

夕方、時間ができましたので、ジュネーブ大学へ行ってきました。1559年にジョン・カルヴァンによって創られた大学です。ジョン・カルヴァンは16世紀中期に町をカトリックからプロテスタントに改宗させました。

(ワークショップでのユース代表団)　(ディスカッションの様子(左奥は田上長崎市長))

(ジュネーブ大学)

Go back to top

Monday, 22 April

初めて国連の建物に入り、国名が書かれたプレートが机の上にのっており、本会議場は圧巻でした。

朝から、パスを貰うために多くのNGO関係者が列を作り、その後8時から、abolition caucus(NGOによる作戦会議のようなものです)、9時からは政府関係者がNGOのために話をしにきてくれます。今日はメキシコでした。これらは毎朝行われます。

その後10時からついに、本会議です。本会議は毎日10:00-13:00、15:00-18:00です。予定より30分遅れて始まりました。とても異例なことのようです。理由はわかりません。

13時15分からは、初めてのNGO side eventに参加しました。

[BEYOND INTERNATIONAL HUMANITARIAN LAW]
ここでももちろん、最近の最も注目されている、「人道的な側面」での話がありました。これまでは、核兵器が使われ、被害を被る人が無差別的であるという観点での非人

道性と私は理解しておりましたが、今回言われていたのは、 Threa（脅威)を振りかざす事自体が非人道的である、それがこれまでの国際的なstatementの中ででてきているというのです。（例：バンクーバー宣言2011）

また、このissueがジグソーパズル的である、つまり、様々な人が様々なコーナー（角）、様々な形で活動している、しかし我々はピースが揃っていないという考え方はとても興味深かったです。ジグソーパズルはとなりのピースとしっかり合うようになっていて、かつ、全てのピースが揃わないと絵には なりませんから。

その後、天野大使を表敬訪問させていただき、後に発表される非人道性に焦点を当てたstatementに対し日本が署名をするのか否か、少しダイレクトな質問をしました。詳細はここでは書きませんが、日本でもいくらか報道がなされているようです。良い結果になることを願っています。

早速、初日の私たちの様子がニュースになっていました。毎度のことながら私は写っていませんが、フレームの少し外で元気にしております。

(本会議場の様子)
(フロア中央が各国代表、その周りと2階席、3階席が傍聴席さらにその上に通訳のかたがいらっしゃいます)

Go back to top

Saturday, 20 April

ジュネーブ1日目です。Icanのセッションに参加しました。

16:00-18:00 Regional Discussion
What can ICAN do regionally to strengthen support for a treaty banning nuclear weapons?
• Europe
• Middle East
• Africa
• Asia/Pacific
• Latin America

• P5
の中のAsian/pacificの分科会に参加しました。日本、オーストラリア、オランダ、韓国、フィジー、フィリピン、ネパールからの参加者がいました。

1つの大きなトピックとしては、昨年の第一回準備委員会での動き、2013年3月のオスロで開かれた、核の非人道性に関するオスロ会議。活発な議論が飛び交い、参加者のみなさんが、どのような戦略で、核不拡散/核軍縮に取り組んでいらっしゃったのかを知ることができました。

印象的だったのが、核兵器を持つことの、risk、 effect、 cost、 human securityに関するもので、中でも莫大な予算を軍事につぎ込むのであれば、国際的にもっと優先すべき、例えば貧困、飢餓などへ向けるのが当然であるべきだという話でした。もしそのような国々が成長すると、核兵器を持ちたいという様な動きが出てくるのではという疑問も生じました。それを防止するために既に存在する条約（バンコク条約、トラテロルコ条約、ラロトンガ条約、ベリンダバ条約）がどれほどの力を持つかというのは、22日のBeyond International Humanitarian Lawにて知ることができるかと思います。

また、”核の傘”に守られている、日本、オーストラリア、韓国がともに取り組むということがすごく重要な事であると思いました。他の地域のセッションもかなり気になりますが、それは、明日の午前最初のセッションでReportが有りますので、楽しみです。

まだ多くの若者と話をできていないので、これからどんどん積極的に彼らの思いを聞いていこうと思います。

Go back to top

このページのトップへ

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/activities/blog2013/yuu

Yuu's Blog

ナガサキ・ユースデリゲーション2013

ジュネーブでの具体的な活動、またそこから私が感じたことについて書きたいと思います。

4月22日から始まった2015年NPT再検討会議第二回準備委員会。初めての国際会議の場ということで、緊張と期待を胸に一日を過ごしました。

オープニングセッションの傍聴、天野大使への表敬訪問、続いて、国連欧州連合の会長である、カシムジョマルト・トカエフ会長への表敬訪問と、一日中張り詰めた気持ちでした。大使とは「核兵器使用に対する非人道性に焦点を当てた声明への日本の参加」、トカエフ会長とは「広島・長崎からの情報発信」といったトピックを中心に話をしました。長崎の代表の訪問が継続して行われることは、自治体・市民が政府関係機関の動きををきちんと見ている、ということを暗に示すためにも必要だと感じました。

23日
私たちが主催したセッション「Ultimate wish」を開きました。30人程度の人が集まってくれて、核兵器に関する映画をみてもらった後、簡単なディスカッションをしてもらいました。「原発の問題ついて」「ドイツの原発放棄のプロセスについて」などについてディスカッションをすることができました。セッション後、参加してくれた人に感想を聞いたところ、「とてもよかった」という感想を多くの参加者から得ることができて、今回のセッションの成功を修めることができたと感じると同時に、ユース一同安堵することができました。

24日
この日は、日本政府が「非人道性に関する声明」に参加しないということを明らかにしました。様々なニュースを見ていると、なぜ賛同しないのか疑問が残るという報道が多くされていました。
この日の夜に、天野大使、並びに、外交官の方々と食事をする機会がありました。その時話した内容から、私が感じたことは、あらゆるケースを考えた上で、最大限の利益を得てと最小限のダメージに抑えることがいかに難しいかということです。

今回の声明に関しては、安全保障の問題に加え、核の傘下にある私たちの生活を守るためにも、精査して判断する必要があったのだと感じました。それに相反して、被爆国日本として中心的な立場に立って、声明国のリーダーとして導いて欲しい、という思いも抱きました

25日
この日の午後に、OPANALという組織の人とyouthの談話会がありました。OPANALからは、カリブ海一帯を非核地帯に統一した条約の締結過程について、特に詳しく話を聞く

ことができました。1960年代に締結された条約ですが、始めは少数の国の賛同から、最終的にはアメリカまで巻き込んで条約の締結に至らせることができたという歴史的な事実を学ぶことができました。

26日
この日は会議開始前に、天野大使に話しかけに行きました。話した内容は、たわいもない世間話でしたが、話の中で「来週から始まる、クラスター2の中東問題、についての会議がどうなるか注目している。」とおっしゃっていました。ちょうどその話の後、中東会議を開くために尽力されている、エジプト代表団のバドル氏とお話をすることができました。バドル氏は数年間駐日エジプト大使館に勤務されていたそうです。
バドル氏が、これから原水協の方々と中東会議について話をしに行くということで、私も飛び入り参加で一緒にお話を聞かせていただきました。
この話でバドル氏が強調されていたことは、中東会議の「imitation, imitation, imitation」「実施、実施、実施」ということです。私が特に印象に残ったことは、NPT再検討会議は決して話し合うことだけが目的ではなく、そこからアクションを起こすことこそ重要である、と述べていたことです。中東会議に関しては、2012年に開催される予定でしたが、開催国の恣意的な理由で一方的に開催が延期されることになっています。バドル氏は「核兵器廃絶に向けて我々がやろうとしていることの邪魔をしないで欲しい。」と強く述べていました。

帰国後、市長やメディアに向けて報告をいたしました。今回のナガサキ・ユース代表団は、国際社会へ若者が赴き、学び、そして被爆地長崎で被爆者や平和活動団体だけでなく次世代の担い手が関心を示し、何か私たちにできないかということを考え実行に移しているという点に於いて、意味のある活動になったと考えています。来年も2期生の代表が自分たちで考え行動することの意味、大切さを肌で感じながら国際社会とは.いかなるものかということについて熟慮してくれると、より実りある活動になるのではないかと思います。
さて、6月14日に長崎大学文教キャンパスで、再度学内向けの活動報告会を開きます。一人でも多くの若者が核兵器廃絶という問題について自ら考えてみる良い機会だと思いますので、奮ってご参加ください。

Go back to top

Tuesday, 23 April

今日は私たち、Nagasaki Youth Delegation のworkshopの中でのディスカッションについて話をしたいと思います。私はドイツから今回の会議に参加している5人の若者のグループに参加しました。

5人の若者にある質問をしてみました。「これまで、68年前に日本で何が起こったのか、被爆とは何か、また、福島第一原発事故の後のことに関する話を聞いたことがあるか？」というような質問をしました。

5人とも、被爆者から直接話を聞いたという経験はなく、今回が初めてだったようです。この映画を見て、核兵器の恐ろしさを、肌で感じることができて、書籍や話のみで知識をつけるだけではえられないような感覚をつかむことができて、よかったと言っていました。

また、ドイツと日本の原発に対する政策の違いについてもディスカッションしました。

「ドイツでは30年後までに原発を廃止する」という政府の方針がすでに決まっていますが、日本では福島の事故が起きたにもかかわらず、政府の方針は再稼動に向けた動きも未だに存在しています。さらに、日本時間の23日の夜、BSジャパンの番組に出演した茂木敏充経済産業相は、原発再稼動の時期に関して「早ければ、秋頃になる」との見通しを示しています。私は、ドイツ人に対して、「なぜ原発停止の政策をドイツは打ち出すことができたのですか？」と問いかけました。返ってきた答えは、

・ まずは国民が動き出したということ
・ 政府も国民の考えを尊重したということ

でした。また、「エネルギー政策の観点から見て、原子力によるエネルギー供給がゼロになると、苦しくなるのではないですか？」と問いかけたところ、

・ 代替エネルギーを駆使し、全体の使用量を小さくすれば問題がない。それに対して抵抗はない。

というような答えが返ってきました。

ドイツには、環境首都と呼ばれている「フライブルク」という町があります。再生可能エネルギーを駆使して、超省エネを実現しています。
http://euro.typepad.jp/blog/2009/11/post-0857.html

日本がこれからエネルギー政策を打ち出していくにあたって、絶好のモデルだと私は思いまし、一人一人がエネルギーについて考え直す必要もありますね。

(ワークショップの様子(撮影：大田))

Go back to top

Monday, 22 April

22日の午後、軍縮会議日本政府代表部、天野万利大使を表敬訪問しました。天野大使は、2011年9月1日に軍縮会議日本政府代表部特命全権大使に任命されました。今回の表敬訪問は、長崎市長・市議会議員・広島市長と一緒に訪問をさせていただきました。

私たちユースのメンバーからも質問をしました。

「最近の核廃絶の新しい流れとして、核兵器使用の非人道性を訴える風潮があります。スイス・ノルウェーを中心に非人道性の観点から新しい条約を結ぼうと動いているにもかかわらず、唯一の被爆国日本が賛同していない現状は疑問を感じます。本来なら、各国を先導して、リーダーシップを発揮してもいいと思うのですが、なぜ積極的にこの動きに乗らないのですか？」

大使の答えを下にまとめておきます。

「そもそも、スイスやノルウェーが中心となって訴えている非人道性は、これまでヒロシマ・ナガサキがやってきたように日本から発信をしてきています。国際的な流れとして、NPTがあって、CTBTがあって、そういう一連の流れの中で核兵器廃絶を実現しようとしてきました。それきたにもかかわらず、今回の非人道性の流れはいささか、強引ではないかと思います。裏で何か操作が行われているのでは？という疑いも生まれてきてしまうのですね。私たちの立場上、条約のstatementが持つ意味を吟味しなければなりません。全体がMinimum なダメージで、Maximumな利益を得るためにはそれなりの時間をかける必要があるのです。しかし、理解しておいて欲しいことは核兵器をなくすというメッセージは、日本政府も同じく持っているということです。そういう意味では、被爆者の方々からの話は国際的にも圧倒的な説得力を持っています。話を聞いた人は皆、before、afterで顔が違うという光景は私も何度も見てきました。

今回の流れを見ると、本当にP5をはじめ、核保有国が本当に参加してくれるのか、禁止条約を建てることが本当に効果を発揮するのかという疑問がある一方で、また、日本はいわゆる核の傘下にあるので、安全保障上の問題も解決しなければならないです。これらの問題を解決するだけではなく、なにか見落としがないか気づくためにも、一歩前進して、立ち止まって、の繰り返しで進んで行かざるを得ないのです。」

天野大使の話は、個人的には筋が通っていたと僕は思いました。大きな問題を解決するためには、そこにはびこる様々な問題、つまり、経済的、外交的、整合性、など多くの観点から考えなければならないですよね。私自身も、強引な手法はとるべきではないと思いますし、天野大使も話されたのですが、全員が一致して目標達成に貢献すると決めたときは、細かなディスカッションは必要がない、ただ前進するのみである。一方で、全会一致が得られず、反対派が出てしまう場合は、何が反対なのか、根拠は何か、ではどうすればいいのか、と論理的かつ建設的なディスカッションをする必要がある、と思います。筋違いの話を推し進めてしまっては、いくつかの国は決して賛同しないと思います。

時間がかかってしまうのは仕方がないのかもしれないですが、しかし、早く目に見える変化が欲しいですね。「前向きな対応」というのが言葉だけにならないように私たちにできることをしていきたいと思います。

(元気でやってます(撮影：大田))

Go back to top

Sunday, 21 April

本日、4月21日から長崎のユース8名での活動が始まりました。今日は「ICAN」が主催するミーティングに参加しました。このミーティングでは、今回の2015年NPT再検討会議第2回準備委員会において、ICANがどのような働きかけをしていくのか、ということを中心に話し合い、ディスカッションを行いました。

3月に開かれたオスロ会議で、核兵器使用の非人道性を強調し「いかなる状況下でも核が再び使用されないことが、人類の生存に利益となる」とする内容の声明が出されました。今日のミーティングでも、この焦点についての議論が目立ちました。私は、いわゆる「BAN」、核兵器を使うことそれ自体を禁止するという常識についてどのように発信していくか、ということに関するworkshopに参加してきました。

「Social Media」という題目のworkshopでは、核兵器廃絶という大きな問題が人々にどうしたら分かりやすく伝わるのかということについて学びました。まずはじめにやるべきことは、発信側が簡潔でわかりやすいメッセージを設けるということです。特に、「理解しやすい・感情に働きかける・記憶に残る」ようなメッセージ作りが大切です。つまり、読み手・聞き手が魅力的だと感じられ、かつ、インパクトがある発信の仕方です。ここで、一つ例として拝見したムービーを紹介します。
http://www.youtube.com/watch?v=jjXyqcx-mYY

バラク・オバマ大統領の演説を、音楽に乗せてアレンジしたムービーです。これは、インパクトを重視して人々が魅力を感じられるような発信の仕方の分かりやすい一例です。ただ、この場合内容が頭に入りづらいという欠点があります。そこで、分かりづらい問題を発信する際に一番重要なポイントとして、よりシンプルに伝えるという点が挙

げられます。次に紹介するムービーは、ICANが作成した、シンプルで分かりやすく、より魅力的なムービーです。
http://www.youtube.com/watch?v=gyBhx30GHlc

アニメーション、画像、それぞれユニークさもありながら、メッセージ性も十分あったと思われます。

今日のキャンペーンではこの他にも、休憩時間に様々な国の人との世間話からその国の核兵器・原子力使用の現状などを話したりと、刺激を得られる良い時間を過ごすことができました。

最後に、「理解しやすく・感情に訴えかけられる・記憶に残る・魅力的かつシンプルに」というキーワードを、ここに残してしめさせていただきます。

Go back to top

このページのトップへ

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/activities/blog2013/yuko

Yuko’s Blog

Saturday, 27 April

本日は，日本語補習校の中学1～3年生に向けて平和学習の授業を行いました。久々にたくさんの子供たちの前で話す機会だったので緊張しましたが，思っていた以上に中学生の皆さんの反応が良く，とてもやりやすかったです。

教材は，先日杏奈ちゃんが小学校でやったものをそのまま使用し，中学生向けに紙芝居の代わりに下平作江さんの被爆証言の読み聞かせをしました。また，その後にディスカッションも取り入れてみました。残念ながら時間が足りなかったため，十分なディスカッションができませんでしたが，子供たちは長崎の原爆について知り，下平さんの実際の被爆体験を聞き，もしも自分たちのいるジュネーブに原子爆弾が落されたら・・・ということを想像することで，それぞれに核兵器の恐ろしさを実感してくれたようでした。

現実に起きた歴史を知ることは本当に大切なことです。少しでも多くの子供たちに，原爆という悲惨な出来事を知ってもらい，未来を生きる子供たちが二度とこのような経験をしないで良いような核兵器のない平和な世界を作っていってもらいたいです。そのためにも「教育」の重要性を，私自身改めて認識した素晴らしい機会になりました。

とうとう明日は日本への帰国の日です。夢のような日々もあっという間に過ぎ去ってしまいますね。皆さん，本当に応援してくださりありがとうございました！

斉藤　佑布子

Go back to top

Friday, 26 April

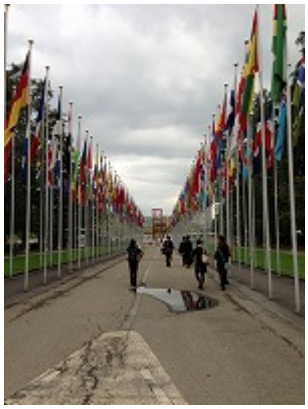
あっという間に私がNPT再検討会議第2回準備委員会に参加できる最終日がやってきました。この1週間本当に全てが新鮮なことばかりで，自分の人生の一部がこの一週間に凝縮されたぐらい濃い毎日でした。

本日も午後は優乃ちゃんと一緒に「SAKURAプロジェクト」を行いました。サクラの花も満開とまではいきませんが，多くの方が足を止めてくれたおかげで8分咲きとなりました、書いてくださったひとりひとりと写真を撮る度に皆さんが喜んでくださることがとても幸せに感じられました。

その後，外務省の軍縮・不拡散を担当しており，RECNAの客員准教授でもある西田さんにもお話を伺うことができました。今回このNPT準備委員会の間に，政府の方々，NGOの方々，若者など本当にたくさんの方のお話を聞く機会がありました。そんな中で最も強く感じたことは，それぞれに立場があり，その立場で今できることを必死で行っているのだということでした。これまでは，ニュースで聞いても，自分にはものすごく遠

い，ほとんど関係のないような存在に思っていたことが，今回目の前でその瞬間を見て・聞いて体感することができて本当にワクワクしました。それと同時に，南アフリカの出した共同声明に日本が署名をしなかったことについては，日本とアメリカとの安全保障条約や様々な歴史がとても複雑に絡み合っていて，そう簡単には厚い壁を崩すことができないということも痛感しました。日本政府も我々も最終的な目標である「核兵器をこの世から廃絶すること」は共通しているが故に，正直とてももどかしかったです。それでも誰かが核兵器廃絶の声を上げ続けなくては，世の中は何も変わりません。次回こそは日本も賛同できることを心から期待しています。

そして，本日がユースのメンバー全員がジュネーブで揃う最終日だったため，夜には全員でタイレストランにて打ち上げをしました。私は明日ジュネーブ日本語補習校である平和学習の授業がここジュネーブでの最後の大仕事となります。



(本会議場の日本代表団の席)　(国連入口の各国国旗の景色)

(SAKURAプロジェクト)

Go back to top

Thursday, 25 April

午前中，私たちはPeace Depotによる北東アジア非核兵器地帯の展望についてのNGOセッションのお手伝いをさせていただきました。私はユースのメンバーであるしんちゃん（中国からの交換留学生）と一緒にユースを代表してコメント述べました。個人的に父

親と父方の祖父母が被爆者であること，家族から聞いた被爆当時の様子，北朝鮮による身近なアジアでの核問題など，いかに核兵器が恐ろしくこの世にあってはいけないものか，そして北東アジアの平和が世界平和への大きなステップになるということを英語でコメントしました。まさか国際会議の大舞台で，このような素晴らしいチャンスをいただけるとは思わなかったので本当に光栄です。

ランチタイムにはPEACE BOATの川崎さんのお話も聞くことができました。被爆者地球一周の証言の旅「おりづるプロジェクト」や，核兵器の非人道性に関する共同声明への日本政府の署名拒否についてなど，NGOとして最前線で活動されている方の意見を聞ける大変貴重な機会でした。

午後には自主企画「SAKURAプロジェクト」を行いました。国連内での大きな活動は禁止されていると聞いていたので，企画が実行できるかジュネーブに来るまで分からない状況でしたが，何とか場所を見つけて十分な活動ができました。優乃ちゃんが企画してくれた，サクラの花びらに「あなたの愛するもの」を書いてもらい，木を書いた布に貼り付けてもらうという活動は皆さんにとても気に入ってもらえました。皆さんが「The beautiful weather in Geneva」「Laughing people」「Everyone」「Sun in spring」などと書いてくださり，それぞれがどんな「愛するもの」を書いてくれるのか私たちも楽しみながら活動することができました。

核兵器は皆さんの「愛するもの」を一瞬で破壊してしまう。また，私がやりたいと企画していた，そこに来てくれた方々に広島・長崎の原爆についての概要と下平作江さんの証言の紹介を行いました。皆さん思っていた以上に話を積極的に聞いてくださり，広島と長崎の声をどれだけ重要に捉えてくれているか実感しました。

(SAKURAプロジェクト)

(日韓NGOとの会食でのお寿司)

Go back to top

Wednesday, 24 April

本日は午前に”Statements by NGOs”を傍聴しました。これは本会議でNGOが公式に意見を発表できる唯一の場です。広島・長崎市長，被爆者・藤森俊希さん，そして世界の若者代表がここで演説を行いました。

午後から参加したNGOセッション” Civil society’s role in banning nuclear weapons(核兵器禁止における市民社会の役割)”は，21日に紹介したICANが主催しており，世界中にある各地帯のICANがどのように活動をしているのかという核廃絶キャンペーンの戦略を紹介しました。特に，今年オスロで主にヨーロッパの若者が大成功を収めた活動をまとめていたリーダーの話は，私たちにとってもヒントとなりました。これからの地球の未来を担っていく若者が，この核問題に積極的に取り組むことがどれだけ大切なことであるかを強調し，その若者たちを盛り上げる戦略など，ICANのコネクションとノウハウは素晴らしいものだと感じました。大切なことは自分自身が楽しみながらやるということです。

ここジュネーブに来て，核廃絶に向けて精力的に活動している若者の姿は多く，日本以上に自分たちの問題として真剣に捉えているのは歴然でした。それは日本にいてもなかなか感じることは難しいでしょう。本来ならば唯一の被爆国である日本が，今世界が直面している問題にしっかりと向き合って議論をし，核廃絶に向けてリーダーシップを取るべきです。

同時に，社会がどれだけ広く，皆が強く望んだところでそう簡単に変わるものでもないということもまざまざと見せつけられている気がします。核兵器のない世界は私たち人類にとって不可欠な世界です。大きな“変化”や“革新”は大きな力を必要としますが，世界中のひとりひとりが辛抱しながら一歩ずつ進むことで，いつの日か必ず核兵器がこの世から廃絶される日が必ず来ることを心から願います。

午後には，ユースのメンバーが行う日本語補習校の小学校5･6年生への平和学習を見学に行きました。土曜日には中学生へ向けて私が授業を行います。大学での教育実習以来ですが，精一杯頑張ります！

(NGOの意見発表)　　(“Civil society’s role in banning nuclear weapons”)

(日本語補習校の様子)

Go back to top

Tuesday, 23 April

本日午後一番に，私たちのNGOセッション”Film screening: “The Ultimate Wish: Ending the Nuclear Age” and discussion”の本番を迎えました。

なんと30名を超える方々が参加してくださいました。このセッションでは，「ナガサキ・ユース代表団」の紹介の後，下平作江さんなど長崎の被爆者の証言や，福島第一原発の深刻な事故についてをまじえた映像を，様々な国の方々に紹介しました。上映後，参加者がこの映像を見て何を感じてくれたのかを，私たち自身も参加してディスカッションを行いました。

セッションを主催するにあたって不安は大きかったですが，ユースメンバーのひとりひとりがそれぞれの役割を果たし，このセッションの目的である「世界の人々に，核問題を抽象的に誰かの問題として捉えるのではなく，個人の問題として捉えて欲しい」ということを多くの参加者に感じてもらうことができた素晴らしいセッションとなったと思います。私たちが被爆地・長崎からジュネーブに来たということがいかに大切なことであるかを実感することができ，本当にワークショップを主催して良かったと心から満足しています。皆がここで少しだけ自信をつけることができたので，今後の活動にもつなげていけると確信しました。

国連の雰囲気にも慣れ，盛りだくさんの充実した毎日に感謝します！

(セッションの様子(左奥は田上長崎市長))

Go back to top

Monday, 22 April

本日より，いよいよ核不拡散条約（NPT）再検討会議第2回準備委員会が始まりました。この会議はジュネーブの国連欧州本部にて約2週間に渡って開催されます。

本会議会場の一階には各国の外交官が座り，その周りを私たちNGOが取り囲んで傍聴するという形で行われました。核廃絶問題の世界の最前線を感じられるこの瞬間に，メンバー全員が胸を躍らせていました。また，本会議とは別にNGOによるセッションが並行して行われています。私たちは23日にナガサキ・ユース代表団として一つのセッションを行います。

午後には，広島・長崎市長と市議会の方々に同行させていただき，軍縮会議日本政府代表部の天野大使へ表敬訪問を行いました。天野大使は外務省の中の核軍縮を行っている部門のトップの方で，日本政府としての見解を直接聞くことができる大変貴重な機会でした。

原爆を体験した広島・長崎は唯一の被爆国として，これまで核兵器の廃絶と核のない平和な世界を訴え続けてきています。しかしながら，我が国は安全保障条約の元，アメリカの核の傘の下に入り，実質的にアメリカに守られているということも事実です。世界の方々から見れば，核廃絶を訴える一方で，核に守られている国であるという矛盾に強く疑問を抱いている方々も少なくはありません。

次回の南アフリカが発表する予定の核兵器の非人道性に関する共同声明に，次こそは日本が政府として賛同するのかどうか…結論が出るのは目前です。私たちは長崎から来た若者として，二度と原爆という悲惨な歴史を繰り返されないためにも，我が国の政府に賛同してもらえるように心から願っています。

夜にはBangというヨーロッパの若者による団体が企画した若者の集まりに参加してきました。私たちと同年代の多くの若者が核廃絶へ向けて活動しており，少しでもコネクションを作って今後に繋がるような仲間となりたいと思っています。
（Bang HP：http://bang-europe.org/）

(本会議の様子)

Go back to top

Sunday, 21 April

皆さんこんにちは！昨日アムステルダム経由で無事にジュネーブに到着しました。ヨーロッパはここ数週間気温の変化が激しく，今週はしばらく10度前後の気温が続きそうです。昨日から参加しているメンバーに引き続き，私は本日，ICANキャンペーンミーティングの2日目に参加してきました。

ICANは”International Campaign to abolish nuclear weapons”の略称で，核兵器廃絶国際キャンペーンのことを指します。世界中の国の人々がこのキャンペーンに賛同し，核廃絶へ向けた活動や政府への働きかけを精力的に行っています。本日も各国のメンバーが参加し，様々なセッションを行いました。（ICAN HP：http://www.icanw.org/）（ICANサポーターズジャパン：http://ican-j.com/）

そんな中で私が興味深かったトピックは「非核兵器地帯」についてでした。これまでに条約として署名がなされた地帯は5か所。そんな中でも，1967年に署名され翌年発効されたラテンアメリカ及びカリブの「トラテロルコ条約」は世界で初めての核兵器禁止地帯として知られています。今年3月のオスロでの「核兵器の非人道性」についての会議に続き，メキシコで会議が行われるため，ラテンアメリカ及びカリブはホットな話題として議論されており，メキシコへ向けたICANのキャンペーンも”National campaigning”, ”Social media campaigning”, “Nuclear Abolition Week, 6-13 July”, “Engaging with governments” の4本柱のキャンペーン戦略を掲げて大詰めを迎えていることを直接肌で感じることができました。まだまだ知識不足が否めませんが，微力ながらもここで少しでも多くの方とのネットワークを広げたいと思っています。

いよいよ明日から核不拡散条約（NPT）再検討会議第2回準備委員会に参加してきます。

Go back to top

このページのトップへ

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/activities/blog2013/anna

Anna’s Blog

Friday, 26 April

今日で私のプログラムは最終日となりました。

まず国連外での活動としては、安全保障政策ジュネーブセンター（GCSP: Geneva Center Security Policy）を訪問し、施設やプログラムの具体的な説明を聞きました。ここでは、政府関係者や外交官、国際公務員や外交官などを養成しており、ITC(Master of Advanced Studies),ETC(Certificate of Advanced studies in Collaboration with university of Geneva),MISC(Focus on non-traditional issues and challenges)といった、1日の短期プログラムから年間を通しての長期コースまでのインターンプログラムを開設しています。

日本人の修了者の方もいらっしゃり、より身近に感じられました。

お昼にはニュージーランドの大使と30分弱会談する機会があり、日本の共同声明への署名拒否についても話題があがりました。大使曰く、市民、民間の力で政府を押していくべきだ、また他国と比較して、日本はその力が弱いことも問題である、だそうです。話の中で「Push !」という言葉を繰り返していたのがとても印象に残りました。

そして、夕方には日本の外交官の方を囲んでユース全員でお話を伺うことができました。

外交官の仕事内容という素朴な疑問から外交に関することまでじっくりと質問させていただきました。日本の外交を考える上で、核廃絶問題についても鍵となるのは「安全保障」問題である、ということを教えていただき、非人道性についての観点に偏って感情的になってはいけないことも理解することができました。コップ半分に水が入っているとき、それがHalf emptyなのかHalf fullであるのかとらえる客観的な視点が重要であるということもおっしゃられていました。

今日のこの三つの活動は前日または当日に決定したことで、この一週間、毎日急なチャンスや機会に恵まれ、出国前には考えられなかった想像以上のことを毎日経験してきました。

全てが想像以上で、普通なら手の届かない場所にあるものが、自分のちょっとした努力や勇気でそのチャンスをつかむことができ、将来につながっていくのではないか、そんな気がしています。ここで得たことは核廃絶問題に関する知識だけではありません。プログラム自体はここで終了してしまいましたが、少しやっと何か見えそうになってきた時点での終了は残念に思います。感じたこと・考えたことを大切にして、長崎でまた何か始めたい、始めなければ、という思いを強く持ちました。

第一回ナガサキ・ユース代表として、今後に繋げられる基盤を築いていきたいです。

(GCSPで説明を受ける様子)　　(GCSPセンター長フレッド・ターナー氏)

Go back to top

Thursday, 25 April

午前中は、Peace　Depot主催の「Denuclearization and Framework for Peace of Northeast Asia」にユース一同運営ボランティアとして参加しました。長崎市長・広島市長も被爆地としての考えを話され、ピースボート共同代表の川崎哲さんもモデレーターとして参加されていました。

先日、南アフリカが出した共同声明に、77か国が賛同する唯一の被爆地である日本が署名を拒否した、ということがyahooのトップニュースに掲載されるほど、大きな波紋をよんでいることもあり、このセッションでの日本に対する注目度は上がっているのではないかと思います。

セッション後、川崎さんに時間をとっていただき、ゆっくりと食事をしながら、この問題に対する疑問点などを率直に質問することが出来ました。

川崎さんによると、「日本が署名を拒否した」という表現で報道されていましたが、「いかなる状況下でも核兵器が再び使用されないことが人類の共存のためになる」の「いかなる状況下でも」という文言を日本の要求に従って削除してしまうと、制約が緩和されてしまうために、それならば、と“日本は拒否された”という見方もできる、ということです。

多くの日本人が唯一の被爆国である日本が署名に参加しなかったことに矛盾を感じていると思います。私も月曜日からこの会議場に実際にいてNGO団体の積極的な活動を感じたり、会議の国際的な動きの横にいたり、大使と会食をする中で、表現しがたいもどかしい思いをしています。

しかし、一方でユースのメンバーが企画した「SAKURA プロジェクト」（「あなたの愛するものは何ですか？」と投げかけ、核兵器はあなたの愛するものを一瞬にして消してしまう、という考えをシェアする企画）に協力してくれた人の中には、日本の被爆の為に祈り、毎年断食をしているという方々や、配布した被爆者の証言を一生懸命読んでくれる方にも出会い、まだまだ悲観せず前を向いて共に進んでいくべきである、と感じました。

参照
川崎哲さんのブログ　http://kawasakiakira.at.webry.info/theme/8956851c4d.html

(Peace Depotのセッションの様子)　(SAKURA プロジェクト(途中経過))

Go back to top

Wednesday, 24 April

今日はジュネーブ日本語補習校を訪問し、平和教育の授業を行ってきました。日本語補習校についてほとんど知識がなかったため、どんな子どもたちが通っているのかも分からなかったのですが、明るく無邪気で、海外にいても子どもの姿は変わらないことを感じました。私のような他の地域で育って「平和教育」に馴染のない子どもたちが前向きに平和について考えることが出来る普遍的な教育方法を考えていきたい、と今回授業をさせていただきました。

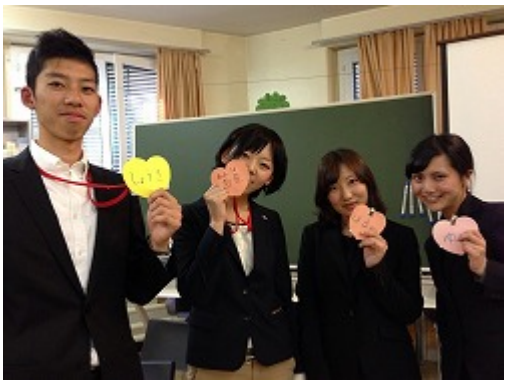
私はこの授業を行うために平和教育の新しい展開が何か出来ないか、と長崎で事前にICTを使った教材を作成し、授業案を練ってきました。私自身、県外出身で、長崎で行われているような「平和教育」を受けたことがありませんでした。小学校の修学旅行で訪れた、広島の原爆資料館の見学が唯一の平和学習です。私は、その時、ケロイドや黒焦げの死体の写真を見た時の衝撃があまりにも大きく、平和への思いよりも戦争や核兵器に対する恐怖トラウマになっていました。そこで、実際の被害の写真は城山小学校や山王神社の鳥居を用い、人々の様子は紙芝居を使う、そして「ジュネーブにもし、同じことが起きたら・・・」ということを仮定して教材を提示するなど、過去から現在、未来へ、そして想像することで前向きに平和への思いを育んでいけるように、と工夫をしました。

授業の間には、子どもたちの素直な「え？」「本当？」という反応や、紙芝居を見つめる真っ直ぐな瞳に私自身感銘を受け、機材の不都合でうまく提示できないものもあったことがとても悔やまれます。どれだけ子どもたちに伝わり、どのようなことを考えていたのかは直接的には分かりませんが、帰国後アンケートを送っていただいたので、楽しみに待ちたいと思います。

また、これにとどまらず、帰国後も実践を積み重ね、長崎以外でも子どもたちが核兵器の問題を抽象的なことではなく、自分自身の問題として考えられるような方法を追い求めていきたいと思います。

今回、このような貴重な機会を提供していただいたことに深く感謝します。

(日本語補修校 玄関)



(訪問メンバー)

(授業の様子)

Go back to top

Tuesday, 23 April

今日はなんといっても、私たちナガサキ・ユース代表団が主催するワークショップが無事終わりました!

初めて訪れた場所で、そしてセッションの雰囲気や参加人数などほとんど何も分からない状況の中で行うのは、不安でいっぱいでした。

また一方で、わたしたちのセッションは本会議の間のランチタイムの時間帯であったこともあり、人が集まらず多くの人に長崎の思いを伝えることが出来なかったら…という不安もありました。

しかし実際、長崎市長をはじめ、昨晩のギャザリングで出会ったヨーロッパのユースの方々も含めて多くの方に参加していただくことが出来ました!!

今回のワークショップでは、私達が先月集中講義を受けた軍縮教育家のキャサリン・サリバンさんがプロデュースした「The Ultimate Wish」（究極の願い）という長崎の被爆者、下平さんの証言と福島の原発汚染による被害を受けている人々に焦点を当てたフィルムを流しました。

フィルム上映後は、少人数グループを作り、率直に「どう感じたのか」「どういうことを考えたのか」ということをディスカッションしながらお互いの思いや考えをシェアしていきました。参加者は皆フィルムの内容にとても感銘を受けているようでした。ドイツでは福島の原発事件以後、原子力発電をやめ、ソーラー発電や風力発電に代わっていった、という話をドイツの学生から聞き、田上市長とともに「被爆地であり、原発事故が起こり、核問題が大きな問題である日本こそ、現在の状況からして、核兵器廃絶へ遠いのではないか」という結論になりました。参加者の多くの人が「このフィルムを多くの人に見てもらい、私達と同じような気持ちを感じてもらいたい」と話してくれました。

長崎の思いを伝え、参加者と思いを共有できたのではないかと思います。

ここにとどまらず、まずこのワークショップを第一歩として、長崎の思いを伝えていかなければ、と強く思いました。

無事終えることができ、協力してくださった周りの方々、参加者の方々、そして温かく見守ってくださった皆様に感謝しています。

(ワークショップ最終準備・打ち合わせの様子)　(ワークショップの様子)

（ドイツの若者とディスカッションされる田上市長(左奥)）

Go back to top

Monday, 22 April

今日からいよいよ国連で、NPT再検討会議第二回準備委員会が始まりました。

国連や国際的な会議というと、各国のトップが集い、私たちにとってはとても遠い存在で硬いイメージが強くあるのではないでしょうか？

今日は、ジュネーブ市内にある日本政府代表部で広島・長崎両市長と一緒に天野大使へ表敬訪問をする機会をいただきました。表敬の中で私達は、長崎からの学生として日本政府へ、「非人道性」の観点から率直な質問や意見を伝えることが出来ました。しかし、政治の複雑さや難しさを感じ、被爆国であり非人道性を訴えるべき日本でさえ、なかなか動きのない状況に非常にもどかしい気持ちになった、というのが正直な気持ちです。

しかし、実際ジュネーブの国連本部内の様子はイメージと随分違う印象を受けました。

まず、本会議の傍聴席には、ヨーロッパから集まった、私たちのようなユースの姿が多くあり、一方で年齢層の高い人々が自分たちの主催するセッションを宣伝するために、フライヤーを配っている姿も多く見られました。

カフェテリアには小さい子どもの姿や、日本人のガイドツアー客もいたりと、一般の人もいて、思っていたより随分、馴染みやすいものであるように感じました。

また、ヨーロッパのユースの核廃絶への活動は、日本の核廃絶運動と比べると、とてもフランクです。会議が終わった後、市街のBarでお互いの自己紹介をしながら、自由に会話する中で、コネクションを築いていきます。

核兵器廃絶という、大きく深刻な問題に、自分たちも様々な人と出会い、話をすることを楽しみにして、その会話の中からつながりや新しいアイディアが広がっていくフレンドリーで明るい姿勢がとても印象的です。

日本でも、このような形で、ユースのつながりを大切にしてポジティブな姿勢で、協力できるようなネットワークづくりを進めていけるようにナガサキ・ユース代表団から発信していきたいと思います。

(国連でID取得)　　(天野大使の表敬訪問(右から5人目))

(informal youth gathering)

Go back to top

Sunday, 21 April

1日に吸収する知識の量が大きすぎて、また英語での理解の為、消化不良の部分も多々あり、とてももどかしい思いもする1日でもありました。分からないところが分からない、具体例として挙げられているものさえ、何のことか分からないという状況が度々あり、1日中話を聞きながら、膝の上ではネットでの検索をし続けるという状況です。

今日はicanキャンペーンの2日目で、よりトピックも具体的になり、話題が世界各地のことに広がっている印象を受けました。私自身、核兵器の問題は核保有国と被爆国である日本の間の問題ばかりであると思っていたのですが、今回、話の中にモンゴルや南アフリカ共和国、そしてメキシコなどの名前も出てきていて、核問題がより世界的な課題であることに気づかされました。2日間のメイントピックとなったのは、メキシコについてです。

今年3月に、ノルウェーで開催されたオスロ会議に続き、6月にメキシコでフォローアップ会議が行われる予定であり、そこでの論点やそこまでのicanの活動の仕方が主にディスカッションされました。ここ数年、オスロ会議でもあったように核の「非人道性」が注目されており、次回のメキシコでの会議でも、その点を要として、icanとしても核廃絶を訴えていくようです。

長崎、日本に住んでいる私たちにとっては、核兵器がいかに「非人道的」であるかは、広島や長崎を例に挙げて、当たり前のこととして皆が理解していることです。しかし、世界規模でみるとそうではありません。

2012年にオーストラリア、ブラジル、イタリア、日本、マレーシア、メキシコ、韓国、イギリス、アメリカの若者、計2,840名を対象にして行われた調査によると、イギリス、アメリカでは、「核兵器が非人道的であると思うか」という質問に対して約15％もの人が、「分からない」または「いいえ」と答えているという結果が出ています。

icanのように若い世代が中心となって核兵器の非人道性を訴えながら核兵器の廃絶を訴える活動の行動力を感じて、若い世代かつ長崎という核の非人道性についてアピールするのに最も効果的な場所にいる私たち長崎のユースは、今こそもっと積極的に世界のユースをリードしていけるように発信していく必要性と責務を感じました。

明日からはいよいよ、国連での会議が始まります。ナガサキ・ユース代表団から発信できる貴重な機会も十分に生かしていきたいです。

icanについては以下のリンクをご参照ください。
ican（英語）http://www.icanw.org/
ican サポーターズ ジャパン (日本語)http://ican-j.com/

(前で発表されるRECNA中村准教授)　(テーマ別ワークショップ)

(全体)

Go back to top

Saturday, 20 April

前日の夕方、35時間以上の移動を乗り越え、無事ジュネーブへたどり着きました。
ジュネーブは、コートを着ても肌寒く、曇っていて風も強いため、日本の2月くらいの気温ではないでしょうか。

今日は初日で、icanが主催する核兵器廃絶のための国際キャンペーンに参加しました。

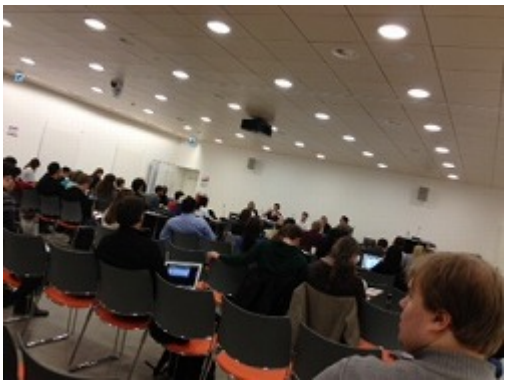
午前10時から始まり、午後6時までオープンディスカッションやヨーロッパなどの地域に分かれたディスカッションもあり、参加者が主体的に参加することが出来るプログラムとなっていました。

参加国は、
オーストラリア、フランス、ドイツ、スウェデーン、イギリスなどのヨーロッパはもちろん、カナダ、アメリカ、メキシコ、ブラジル、メキシコ、フィリピン、ネパール、韓国、フィジー、ナイジェリア、チュニジア、南アフリカ共和国、世界各国から集まっていました。参加者の多くは英語が母国語ではない国の人々であることも興味深かったです。

ディスカッションの中では、このような様々な国同士でネットワークを広げるためには、言語的な問題もあるということも何度か出てきており、休憩中にドイツの活動家と話した中で、今この場に参加している人同士でさえ、各々の国の特有の訛りが英語にもあるために互いに理解することが難しいという問題もあるようです。

人々の発言や事象が、解釈の仕方によってニュアンスが変わってしまい、誤解が生じてしまうことはないのか、という疑問が湧きました。私も英語での理解に自信がないため、ユース同士での情報交換がとても重要かつ不可欠であるように感じました。

月曜日からのNPT会議では、より様々な情報を消化しなければならないので、お互いシェアしあうことで情報の正確さや知識量をみんなで増やしていきたいと思います。



Go back to top

このページのトップへ

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/activities/blog2013/yuno

Yuno’s Blog

Monday, 29 April

SAKURAプロジェクトをしました。いつもはNGOルームの前でするのですが、今日は、午前のセッションが終わったあとの本会議場で行いました。ニュージーランド、イエメン、ロシア、オーストラリアの政府関係者にSAKURAプロジェクトに協力をお願いしました。

ニュージーランド、イエメンの方は、協力してくださいました。しかしロシアは核保有国だからという理由で協力はできないと言われました。オーストラリアの方からは時間がないと言われましたが、はっきりと協力できないとは言われていません。

明日もいろいろな人に協力をしてもらい、長崎に満開の桜を持って帰れるように頑張ります。

Go back to top

Saturday, 27 April

今日は、ジュネーブ日本語補修学校へ行きました。先日は小学生に授業をしましたが、今回は中学生(1年生～3年生)に授業をしました。内容は、小学生への授業を少し変えて、ディスカッションの時間と鶴を折る時間を設けました。

ディスカッションの内容は、①被爆者の証言を聞いてどう感じたか。②今後核兵器をなくしていくために自分には何ができるか。でした。

残念ながらディスカッションは十分な時間が取れませんでしたが、核廃絶について考えてもらえたと思います。

子供たちと折りづるを折りましたが、作ったことがある子がほとんどで、みんな上手に鶴を作ることができていました。中には、折り紙が得意な子がいて、その子は、普通の鶴ではなく、クジャクのような鳥を折っていました。クオリティーの高さに驚きました。

授業が終わったあとに、フランス語を少し教えてもらいました。中学生は思っていたよりも、可愛くていい子でした。

Go back to top

Friday, 26 April

今日はニュージーランドの方からお話を聞く機会がありました。ニュージーランドはかつて、日本と同じようにアメリカの核の傘に依存している国の1つでした。しかし、核兵器の決別こそが自国に安全をもたらすという政策をとり、現在では非核兵器地帯となっ

ています。その政策を支えたのは市民の力であり、市民の力は「非核化」のために重要なものであることを改めて感じました。

また、ニュージーランドは核の傘から抜けたことによって、核の傘によって自国をまもるのではなく、南太平洋非核地帯という多国間との協調によって安全保障をより一層強めました。核の傘から抜け出せない日本にとって新しい道を示してくれるのではないかと思います。

そして今日もSAKURAプロジェクトをして、多くの人が協力してくれました。長崎に帰ったら、学生や市民の方々に見てもらえるように展示することを考えています。

Go back to top

Thursday, 25 April

今日は、私が企画したSAKURAプロジェクトと斉藤さんの企画を行いました。SAKURAプロジェクトとは、「『あなたの大切なもの』を核兵器は一瞬にして破壊してしまう」という考えをシェアしてもらう企画です。場所は、国連内のNGOセッションが行われている部屋の前で、対象は会議に参加しているNGOや政府代表の方々です。SAKURAプロジェクトは、前川さん、下田さん、斉藤さんが手伝ってくれて、1時間ほど行いました。想像していた以上に人が集まってくれて、とてもうれしかったです。『nice idea!!』と言ってくれた人もいました。また被爆者の証言と広島・長崎の原爆による被害状況をまとめたものを配布するという斉藤さんの企画も、興味を持ってくれる人がたくさんいて、資料を一生懸命読んでくれました。

また、ピースボート(NGO)の代表である、川崎哲さんとお話しする機会がありました。今回日本が、「核の不使用」についての共同声明に署名しませんでしたが、そのことについて川崎さんに質問をしたり、詳しく説明していただいたりしました。

この一週間、日本政府の意見、NGOの意見を同時に聞く機会があったり、日本の大きなニュースにもなるようなことが、目の前で動いていたりと、自分は今すごいところに立っているんだなということを感じます。

(SAKURAプロジェクトの様子)

Go back to top

Wednesday, 24 April

今日の主な出来事として、ジュネーブ日本人補習学校の訪問、授業がありました。
ここには、小学生から中学生までの約300人の生徒が週1回通っており、今日は、5，6年生の生徒17人を対象に、下田さんが中心となって授業をしました。長崎大学をはじめ、長崎の方々が折ってくださった千羽鶴を見て、子供たちはとても喜んでくれました。

話は大きく変わりますが、今回南アフリカから出された共同声明に日本は賛同しませんでした。日本政府の対応にとても残念に思います。日本はアメリカの核の傘に入っていて、核抑止力を認めています。私は核抑止力が効果を持っているようには思えません。例えばテロに対する核抑止力、核抑止力が本当に効果を持っていたならば、9.11は起こらなかったのではないでしょうか。核兵器を使用したところで未然にテロを防ぐことは不可能です。むしろ核兵器が存在するせいで、核兵器を使ったテロが起こる危険性が高まるのではないでしょうか。今回の日本政府の姿勢、また今後の日本の動向に対して、国民一人ひとりが考えて、そして声をあげていかなければならないと思います。

NPT準備委員会では、そうした一般市民の声を伝えるNGOの意見発表の枠が用意されています。被ばく地の声、被ばく者の声、若者の声を各国政府へアピールする場です。今回、私たちも若者の声を伝える声明の起草プロセスに参加したのですが、なんと私たちが提案した一文が発表された声明に盛り込まれていました。

“We have not experienced the same suffering as the Hibakusha, but we can imagine the inhumanity of these nuclear weapons by listening to their testimonies.”
(私たちは被ばく者と全く同じ経験はしていませんが、被ばく者の証言を聞くことによって、どれほど核兵器が非人道的なものであるか想像することは出来ます。)

核廃絶のためには各国の政府の力だけでなNGOなどの市民の力も、とても重要だと感じます。私たちの意見が、本会議での正式な場で発表されて、とてもうれしかったです。そして、このstatementで核廃絶の動きがさらに大きくなることを期待しています。

Go back to top

Tuesday, 23 April

今日は、私たちNagasaki Youth Delegationのセッションがありました。

約30人が参加し、その中の半分ほどが私たちと同じ年代の若者でした。

Discussionでは『the ultimate wish』を見ての感想や、日本の核政策に対する姿勢、原子力発電についてなど、さまざまさ意見が交わされました。国連内での初めてのセッションはとても緊張しましたが、とても貴重な体験ができたと思います。

Go back to top

Monday, 22 April

今日から2015年NPT再検討会議第2回準備委員会が始まりました。各国の政府代表団が１つの場所に集まる国際的な会議に、参加できて光栄です。

本会議のopening sessionは本来の予定ならば、10:00スタートでしたが大幅に開始時間が遅れ、10:50からスタートしました。また、各国の政府代表団は全体の3分の2ほどしか出席していませんでした。今日の様子を見ていると会議自体に少し活気が感じられなかったように思います。一方で、先日からICANのセッションをはじめいくつかのNGO 団体の様子を見てきましたが、彼らは核廃絶にとても積極的な姿勢です。NPTへの関心には国家間、または国家とNGO団体の間で差があるのではないかと感じました。

午後は軍縮会議日本政府代表部特命全権大使である天野大使にお会いしてきました。

日本の核政策は、アメリカの核抑止力に依存する形であり、段階的な核軍縮に努めていくという姿勢です。近々南アフリカから核兵器の非人道性に関する共同声明が出される予定ですが、核軍縮分野で特別な発言力を持つ日本に賛同して欲しいということで、今回は人道的影響に関する記述のみが書かれています。天野大使に今回日本はこの声明に賛同するのかと聞いたところ、賛同するとはおっしゃらなかったのでとても残念に思います。また、天野大使は核兵器禁止条約が作られてそれが効果を持つかどうかわからないので、日本政府は簡単にYESとは言えないともおっしゃっていましたが、実際に制定してもないのに、それが効果を持つか否かはわからないのではないかと思いました。

Go back to top

Sunday, 21 April

今日は、昨日から開催されていたICAN MEETINGとそのあとのレセプションに参加しました。ICAN MEETINGについては、他のYouthが詳しく書くと思うので、私はレセプションについて書こうと思います。

レセプションでは、さまざまなNGO団体の18歳から80歳ぐらいまでの幅広い年代の人、50人ほど参加していました。私は、主にその中のヨーロッパの若い人と話す機会があり、私たちNagasaki Youth Delegationの紹介をはじめ、今回のジュネーブの滞在期間や、長崎、日本のことなどを話しました。

今回、ICAN　MEETINGと、レセプションに参加することで、ヨーロッパでは若者、また女性が中心となって核廃絶に積極的に活動しているということを感じました。

Go back to top

このページのトップへ

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/activities/blog2013/shoki

Shoki's Blog

Friday, 26 April

いよいよジュネーブでの活動の最終日です。

今日は、エジプトのバドル大使と、外務省で核軍縮に携わっている方とお話をしました。

バドル大使のお話では、主に中東の非大量破壊兵器地帯についてでした。2012年中に中東非大量破壊兵器地帯に関する国際会議を開くという約束が果たされなかったため、2013年に向けて行動をしているところだそうです。ここでキーとなる国が核兵器保有国のアメリカとその疑いがかけられているイスラエルです。アメリカはイスラエルを擁護するような発言をすることがあるそうだ。非大量破壊兵器地帯を推進する人たちは、アメリカに対して、イスラエルに非核地帯に入れを強要するように要望しているのではなく、イスラエルをかばうようなことはしないでくれと頼んでいるそうです。また、すでにNPT（核不拡散条約）が存在しているため、それを守るよう訴えているわけで、新しい交渉をしようとしているわけではない。条約等に参加し、それらの会議に出席するか否かを判断するのは各国に責任がある。出席しないで、その場で決まったことに対して反論や無視するのは無責任であるという考えを示されていました。

外務省の方との話では、外務省でどのようなことが行われているのか、今回の共同声明を通じてどのような動きがあったか等、核軍縮に関することや、条約を作成し交渉、発行、改善していくことなど全体に通ずるようなことまで聞くことができました。

今回のジュネーブで学んだことはいくつもあります。また、ユースのメンバー8人それぞれ違ったことも吸収したと思います。実際に世界の物事が決定する場所に参加することで、その場の雰囲気や国家間のやりとり、非政府組織と政府間のやりとり等、核問題だけでなくあらゆる問題に関して共通しているものを肌で感じることができました。非核地帯や共同声明等、今世界が核廃絶に向けてどのような動きをしているのか等知ることもできました。帰国後には、ジュネーブで学んだことを多くの人と共有する機会を設けようと思っています。

今回ユース代表団の一員としてジュネーブに行き、活動することで、核兵器についてはもちろんのこと世界規模で取り組んでいる又取り組むべき問題に関わっていくうえで重要なことを吸収したと思います。今日でこのブログは終わってしまいますが、僕のブログを読んで、何か一つでも知らなかった情報を得たり、考える機会になっていただけたら幸いです。ありがとうございました。

Go back to top

Wednesday, 24 April

スイスの朝の空気はとてもフレッシュでおいしいです。しかし昼間は、もう真夏のように熱いです。

さて24日は、大きなイベントが2つありました。日本人学校での平和の授業と、天野大使と田上市長との会食です。

まずは、日本人学校訪問について。ジュネーブにある日本人学校に通う小学生に平和の授業を行う機会を設けさせていただきました。そこでは大きく3つのことをやりました。

1つ目は、教育学部の杏奈さんが作成したパワーポイントで長崎の原爆について学習しました。きのこ雲や建物が爆風で無くなった写真やGoogle Earthを使って原爆が日本人学校の真上に落ちてしまったらなどのデモンストレーションを使い授業をしました。子供たちは知らないことだらけで驚きの声が何度も上がりました。

2つ目は、長崎市に提供していただいた「私たちが伝える被爆体験」という紙芝居をしました。みんな紙芝居に集中して一人一人心の中で考えているのが子供たちの目を見て感じました。

3つ目は、ハートの形の紙に一人一人大切なものや大切な人を書いて1つの作品にしました。

もし、核兵器が使われたら、これらはすべてなくなってしまう。そうならないために自分たちに何ができるかをいうことを家族の人と話してみてください、というメッセージとともに作品を作りました。

天野大使、田上市長との会食では、多岐にわたるお話ができました。個人的にお話した内容は、核兵器を含む兵器の削減そして廃絶、外交、民主主義、投票率、地域力、物事の考え方、読書などたくさんのトピックについてお話ができました。大使、市長、そして学生、様々な社会的地位はあるが、話す言葉、内容というものはどれも同じ価値を持っており、それらを尊重することが議論する上で非常に重要なことであると思いました。

Go back to top

Tuesday, 23 April

23日は、私たち長崎ユース代表団がNGO sessionを主催した記念すべき日です。核兵器廃絶に向けて世界規模で活動しているのNGOの方々が、国連の一室をNGO roomとして設け様々なsessionを開いています。私たちもその枠をいただいて長崎そして日本のメッセージを伝える機会を得ました。

私たちのsessionでは、“The Ultimate Wish”という映画を上映し、それについてグループディスカッション、意見のシェアをしました。上映した映画は、ナガサキ・ヒロシマそしてフクシマといいう3つの核問題を通して今の核社会に対してメッセージを送っています。

核兵器と原子力発電は利用の方法は違えど、元をたどれば同じものから始まっているということ。核兵器使用による被害の恐ろしさ、むごさ。技術向上によって殺傷能力が数倍にもなった現在の核兵器が使用されたらどうなるか。それは決して遠い未来のことで

はなく近い将来に起こりうることである。他人事ではなくいつ自分自身に降りかかるかわからないすごく身近なことであるということ。

グループディスカッションでは、映画を見て感じたこと、考えたことを話し合った。多くの人は、原爆の映像をはじめ、被爆者の方々の映像を見たことがなく、ショックを隠しきれない人もいました。私たちユースが初めてこの映画を見たときと同じような感情を抱いていた人も多かったです。悲しいやひどいという言葉では表現しきれない、心揺さぶるものをこの映画を通じて感じいただけたと思います。

私は、被爆者の方々の経験は、他のどんなデータや理論等よりも影響力があり、人々の心に訴えかけるものだと、このsessionを通して改めて認識しました。

被爆者の方々の平均年齢がまもなく80歳になるという現実を踏まえて、被爆者の方々のお話をどう継承していくのかということについてもぜひ、海外の方々と議論したと思います。特に、海外のNGOのメンバーは若者そして女性が多いです。これが意味するものは、“核”のとらえ方が日本を違う、ということだと私は思います。彼らの違った観点から先ほどあげた問題などについて議論することで、今までと違った解決案が出てくると思います。みなさんもぜひ今一度、日本で起きた悲惨な歴史について考えてみてください。

Go back to top

Monday, 22 April

長崎、広島の両市長とともに天野万利軍縮大使と面会しました。そこで意見を述べる機会があったので大使ご本人に質問をしました。

「これまではナガサキ・ヒロシマが孤独に、核の非人道性の観点から核廃棄廃絶を訴えてきた。しかし、オスロ会議以降、世界全体が、核の非人道性の観点から核兵器を減らすだけでなく廃絶すべきだという動きになっています。そして、核の非人道性について、科学、医学、環境等様々な分野で論理的に検証されている。このような現状を考慮すると日本政府としては、これまでにないチャンスであり、この動きに様々な面から賛同しやすいと思われるが、実際の外交情勢はどうであるか。」

これに対する応答の中で、いくつかの条約が出てきたので簡単に紹介します。条約の詳細を知りたい方は、URLを貼っているのでご覧ください。

(1) NPT（核不拡散条約）
アメリカ・ロシア・中国・イギリス・フランスを核兵器国と定め(P5)、それ以外の国に核が拡散することを防止し、締結国の核軍縮、核の平和利用を目的としている条約です。核保有国が積極的な参加することで効果がある条約である。
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kaku/npt/gaiyo.html

(2)CTBT（包括的核実験禁止条約）
宇宙空間、大気圏内、水中、地下を含む場所での核実験や核爆発を禁止する条約です。この条約は未発効であり、早期発効に多くの政府、機関がアプローチしているが核兵器保有国の未批准などにより先行き不透明なのが現状です。
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kaku/ctbt/gaiyo.html

(3)FMCT（兵器用核分裂性物質生産禁止条約）
核兵器国やインド、パキスタン、イスラエル(NPT非締約国)を中心に、核爆発装置の研究・製造・使用のための高濃縮ウランやプルトニウム等の生産を禁止し、その為の他国による援助を禁止する条約です。
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kaku/fmct/gaiyo.html

このように多くの国際条約があるが、どれも核兵器保有国が批准し実行していかなければ、変化が起きにくいものである。日本が核の非人道性を訴える共同声明に参加していない理由の一つにこのことが挙げられるそうです。

また、法的拘束力の有無や条約の効力の現実的発動、戦後の日本政府の発言・主張と一致しているかなども議論されているようです。

これらの動きは核兵器廃絶という大きな目標への1つのアプローチであり、それらに賛同したから目標が達成できるわけではないため、慎重な態度で臨まなければいけないということでした。今回の場合、核の非人道性から核兵器を廃絶するという目標へ、共同声明に参加するというアプローチが正しい選択なのかということを精査しているとのことだった。

天野大使との面会は非常に短い時間でしたが、「物事の最終的な決定を下す政府の方」と「その物事に対して様々なアプローチをしている非政府の人や団体」との間にある雰囲気、意見の衝突、互いの思い等を体験することができたことは非常に良いことだったと思います。

Go back to top

Sunday, 21 April

お騒がせしてすみませんでした。ようやくジュネーブにたどり着きました。

飛行機の遅延によりヒースローでの乗り継ぎができず、やむなくヒースローで一泊していました。そんなこんなでばたばたした出発だったのですが、この経験を通して改めてインターネット社会のすごさを、身をもって感じました。もし携帯電話がなかったら、もし携帯電話でインターネットが利用できなかったら、私はホテルや飛行機の予約が取れずジュネーブに行くことはできなかったでしょう。今、世の中はインターネットなしでは生活が困難なことを実感しました。このことは核兵器をはじめとする核問題についても同様です。すべてはコンピューターで管理されているのです。機械ですから当然故障はありますし、それらを操作する人間も誤った操作をする可能性は十分にあります。もし機械が故障して核兵器が自動発射されたら… 操作や指示に間違いにより核兵器が使用されたら… 私たちが住んでいる地球はどうなってしまうのだろうか。世界には現在約19,000発もの核兵器が存在しています。これらすべてが完璧に管理されることはほぼないでしょう。なぜなら、完璧でないコンピューターがそれを管理し、完璧でない人間がそれを操作するからです。そう考えると一刻も早い核兵器廃絶又は核兵器廃絶に向けた効果的なアプローチが必要です。私は、今回の経験からこのようなことを考えました。

ICANのイベントには、最後のセッション“Closing Remarks”からの参加となってしまいました。プレゼンテーターへの質問で、“私たちの国は、英語が母国語でありませんので、このWebサイトの言語を英語だけでなく、ほかの言語でも見られるようにしていただけ

ませんか”というものがありました。この要望はシンプルですがとても重要なことにおもえました。全世界の全国民に目を向けると英語を流暢に使い、何の苦も無く読み書きができる人の割合はそんなに多くありません。ということは、せっかく様々なデータや情報を集めたWebサイトも一部の英語が使える人々には見てもらえるがそうでない人々に見てもらうには困難な点がいくつもあります。核兵器の問題は、一部の人だけでなくみんながそれぞれ考えるべき問題です。そのためにもできるだけ多くの人が閲覧できるよう英語だけでなく複数の言語で閲覧できるようなWebサイトを作ることはとても重要だと感じました。

今回は具体的なことについて報告できませんでしたが、明日以降は、本会議やNGOのサイドイベントに参加し学んだことや議論したことについてみなさんに報告できたらと思っています。

Go back to top

このページのトップへ

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/activities/blog2013/fangxin

Fangxin's Blog

Friday, 26 April

今日も随分忙しい日であった。そして、今日が私にとってはジュネーブ最後の日でもあった。本当にあっという間だった。

いつも通り、朝は8時にNGOセッションから始まった。1986年4月26日は旧ソ連のチェルノブイリ事故の日であった。その悲しい話を少しした。9時かの政府説明会は今日はルーマリアだったので、今回の会議の議長であるルーマリア大使が来た。私たちは議長と名刺交換をした。10時から、私は本会議に傍聴に行った。イラン、ウクライナ、欧州連合、インドネシア、ニュージーランド、フランス、イギリスなどが発表した。北朝鮮やイランの国際的核拡散体制に対する挑戦を批判した。特に、ニュージーランドは、北朝鮮は自国民の生活に注目すべきだ。イギリスは、北朝鮮が6か国協議に戻るべきだと言った。他に、日本は他の国も技術上の援助は応援するといった。中国はまず平和な国際環境が必要で、対話を通じて、平和的に朝鮮やイランの問題を解決すべきだ。そこから、スペイン、スイス、アメリカ、ロシアなどが発言した。主な話題は、NPTは今も核不拡散の基礎であり、そして、監視する必要はある。

午後、ユース4人のメンバーでGCSP(Geneva Centre for Security Policy)に行った。そこで、担当の一人と一時間ぐらい話し合って、私たちに彼らが普通どのような仕事をするかのを紹介した。

その後、すぐに国連内に戻って、日本外務省軍縮・不拡散専門官西田さんと話した。普段の仕事内容から、特定な問題に、そして西田さんの自分の人生の経験まで、いろいろ教えてくれた。

最後に、みんな全員で、国連のなかで、記念写真を撮った。あとは一緒に食事しながら、今回の感想をまとめた。私は、この一週間、すごく勉強になりました。私にとって、貴重な経験であった。

(コーネル・フェルーツァ議長(ルーマニア大使))　(GCSPを訪問)

(日本政府団)

Go back to top

Thursday, 25 April

今日は8時からのNGOセッション時に、昨日ジュネーブの日本政府代表部に向けて行ったデモの様子を上映した。共同声明には74カ国が署名したそうだ。9時からのGovernment Briefingはオランダ政府であった。核安全サミットを紹介し、NATOとロシアの間の核の数を減らすべきだと言った。核兵器の非人道性も強調した。

10時からは日本と韓国が主催するワークショップであった。まずは長崎と広島の市長が挨拶の言葉を言った。ヒバクシャの話があり、今の北東アジアの6か国協議がまずい状況に陥っているのを語った。次に、韓国、日本、ヨーロッパ、オーストラリアなどからの学者が発言し、話の主な中心は北東アジアの非核地域へのアプローチであった。皆各方面から、たとえば、日本や韓国や中国や北朝鮮やアメリカなどから、その目標を実現するための可能な方法を出した。その後、ナガサキ・ユース代表団の代表として、佑布子ちゃんと私が簡単なコメントをした。今まで私は国連の会議室で発言できるなんて思っていなかったので、すごく緊張して、話すスピードも速くなってしまった。しかし、この経験は、やはり光栄で、楽しかった。

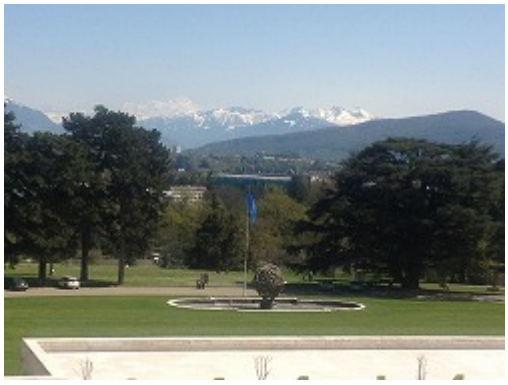
午後は他のユース代表団からの連絡があって、三つのグループで一緒に今回の会議の議長を訪問した。ラテン・アメリカおよびカリブ地域の核兵器禁止地帯に関する貴重な話を聞いた。その話によると、非核地域というと、まずはその地域のすべての国家が一度に入ったということではなく、最初にいくつかの国家が先に入って、そして、だんだん他の国も入ったそうだ。今は、そのような政策が重要だ。そして、P5の中で、中国が唯一のほかの国に対して、絶対に先制して核兵器を使用することはしない、という正式な声明をした国であると言って、ほかのP4もそうさせたいと言った。その後の議長の話によると、今の国際安全システムはいろんな制約を受けたが、NPTがやはりその側面で一番重要な条約であり、基礎であり、枠組でもある。学生は重要な力で、各側面からさまざまな知識や知恵を勉強した。議長は各国の外交官が国連で一生厳命目標を達成するために働いていることを伝えたいそうだ。会見が終った後、私と大田くん、福田くん、江島さんと四人で会見の話や分からないところについて、お互いに議論した。

4時過ぎて、私は本会議を傍聴した。フィリピン、アメリカ、日本、アルゼンチン、オーストラリア、南アフリカなどが発言した。アメリカはすべての国家が核不拡散の義務をきちんと守るべきたといった。日本は東南アジアでの非核地域を促進するなどを言った。オーストラリアはCTBTの通過や発効などを促進させるということだ。

夜7時ぐらい、みんな一緒に寿司屋に行って、日韓の学者たちと食事をした。いろんな話もできた。

(ワークショップの参加者)

(コーネル・フェルーツァ議長(ルーマニア大使))



(会場からの景色)

Go back to top

Wednesday, 24 April

今朝8時に、同じようにNGOsのセッションから始まった。ICANの共同代表で、日本人である川崎さんは日本政府に核の非人道性に関する声明に署名するよう働きかけている活動について紹介した。政府が署名しないことは、被爆国としての道義的な責任を放棄し、非人道性をめぐる国際的な議論の高まりを阻害する行為となると言った。

9時から、政府側面からNGOsへの説明部分に入った。今日はコスタリカ政府代表団である。市民社会の役割を肯定したり、非核地域というアプローチの作用も強調した。

10時から、私達はPeace depotの明日のセッションの手伝いについて、そのセッションの議長である金マリアさんと待ち合わせ、ボランティアの仕事の詳細を打ち合わせた。

10時40分ぐらいから、みんな本会議に入った。核兵器がもたらす災難が今まで人類の災難を超えて、人道法にも違反していると言った。核兵器投下後の救護活動は困難であり、投下されないための手段がもっと重要で、核兵器は使用されないべきだ。その中で、全面的に核軍縮が一番重要だということを語った。今、いくつかの障壁が存在している。例えば、CTBTはまだ批准されておらず、2010行動計画も順調に進まない。進むことができなければ失敗だ。NPTが発効して以来、もう40年も経ったが、規範的で曖昧なところは少なくない。そして、核兵器をシェアすることも終わらせるべきだ。ミサイル防衛システムの発展も一つの障壁でもある。透明度を上げるのは根本的な方法ではなく、核と運送するツールを削減することが本当の軍縮だと言った。

今日の本会議ではNGOs演説があった。田上市長も長崎市長として、そして平和市長会議代表として演説を行った。また、若者代表としてBANg(核兵器禁止若者ネットワーク)とNuclear Age Peace Foundation(核時代平和財団)の代表も演説を行った。田上市長は核兵器の非人道性を強調し、市民署名活動や北東アジア非核地域のアプローチを紹介した。若者代表は、冷戦が既に終った今、その威嚇論理は役に立たない。若者の将来や自由や安全や運命がかかっているので、互いに協力しあい、具体的な成果を上げてください、と呼びかけた。その後、傍聴していた政府代表団からいくつか質問された。どうすれば政府と仲良く相互促進できるか、などの問題が出た。市民社会の活動は政府の仕事にチャレンジすると同時に、応援する。

13時15分から、市民社会の役割のNGOsのセッションに参加した。その中で、特に若者の重要性を強調した。

15時20分ぐらい、私は本会議に戻った。一般演説中であった。ナミビアは、核保有国は特に軍縮を推進する責任を持っている。中東アジアの非核地域に関する会議を今年中に行うのことを希望した。イスラエルが実行しないのは大きな障害で、ある国家がそれを見なかった。モロッコは、重要なのは2010年の行動計画を実行するということだと発表した。アルゼンチンは、もしある国家が条約を守らないと、他の国が条約を守らない言いとなると述べた。その他、オーストリアや南アフリカやアルジェリアや国際赤十字機関なども次々に発表した。一番意味深いのは南アフリカが提唱した非人道性に関する文書で、74の国が署名したが、日本は署名しなかった。国際赤十字機関は長崎、広島での被爆者の治療に基づく経験はすごく重要だ、と述べた。

そのあと、約16時半に、クラスター1が始まった。まずはインドネシアが非同盟運動を代表し、次はEU、ドイツ、メキシコ、エジプト、フランス、イギリス、ポーランド、イラクであった。メキシコは今、何分以内で世界を殺す兵器を持っているという事実を強調した。エジプトは核軍縮の透明度を上げようといった。フランスはできるだけ早く東南アジア非核地域の文書を署名することを説明し、最近の進展も紹介した。例えば、2008年に空軍核抑止力の三分の一を削減するのを宣言し、核潜水艦の数も少なくする。CTBTを最初批准した核保有国で、イギリスと協力して、核試験場をなくすることなどがある。イギリスは核の保有量を削減し、非核国家に対して、核兵器を使用せず、威勢もしない。そして、2014年のＰ5の5回目の会議を期待する。イラクは核兵器が人道法を違反し、ある国家が今までの会議の成果を真面目に守らないといって、NPTができるだけ、早めに一般化させようと語った。

19時半ぐらいから、皆スイスのレストランで、天野大使と市長達と一緒に食事をした。話を聞いて、専門の知識でけでなく、人生における将来の展望も開けました。

(発言をする田上長崎市長(右段左から2番目))

(核兵器の人道的側面に関する共同声明を発表した
南アフリカ政府)

(天野大使、田上市長との夕食会)

Go back to top

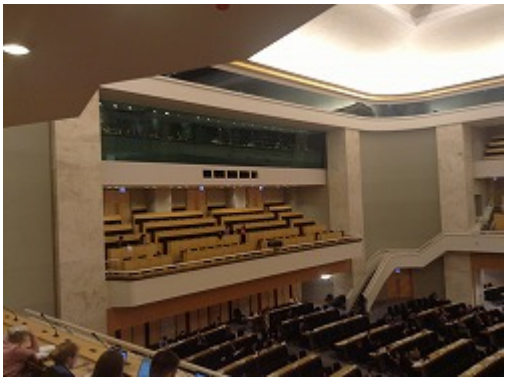
Tuesday, 23 April

今日は朝8時から、昨日のようなNGOsのセッションに参加した。毎日これから始まる。皆一緒に議論した。9時から政府のNGOsへの簡単な説明をした。今日はアメリカ政府なので、参加者がすごく多かった。NGOsからいろいろ質問も出た。アメリカは世界のリーダーだから、ロシアと一緒に核軍縮の分野で何とかしようと言われてました。ヨーロッパから核兵器を持って離れなかった理由を聞く人もいった。

10時から、本会議の傍聴に行った。デンマーク、マレーシア、カザフスタン、タイ、ベラルーシ、アイルランド、ネパール、NPDI代表団、オランダ、ブラジル、イランが次々に発言した。デンマークはイランと北朝鮮がIAEAと協力しなければならないと述べた。マレーシアはNGOsの貢献を肯定し、政府がNGOsと協力するのを通じて、進歩を取ることができると述べた。タイは東南アジアで核監督機制を設立することを提案した。ベラルーシは自分が90年代、無条件で核兵器を諦めることを協調した。アイルランドはオス

ロ会議に参加しない国がきちんとメキシコの会議に出席して欲しいと述べた。NPDI代表団は北朝鮮の核試験がCTBTの通過の重要性を表現した。オランダは多角的な協力が需要だが、米ロ両国間の協力がすごく重要で、非戦略核兵器も含められるべきだと述べ、核テロにも注意するべきだとも述べた。イランは去年のアメリカの核試験を批判し、それが軍事的な競争を引き起こす。そして、核を平和目的で使用する権利を強調した。

12時45分から、いよいよ私たちのセッションの準備が始まった。会場内外の案内や電気の操作やマイクなどの確認で、皆一生厳命準備した。13時15分から開始した。予定通りに順調に進んで、良かったと思う。14時45分ぐらいにセッションが終わり、15時ぐらい皆一応集まって、日本にいるRECNAサポーター達とSkypeで連絡を取り合い、報告した。その後、NGOsセッション「Moderisation and New Plenary: General Debate」の会議に参加した。科学技術の進歩によって、主体は人類ではなく、ロボットになるかもしれないと思う人もいる。技術がたとえ進化したとしても、やはり人間が一番重要だと思う人もいる。17時ぐらいに終わった。



(米国政府によるGov. Briefing)　　(NPT準備委員会・会場)

(会議を傍聴するRECNA中村准教授)

Go back to top

Monday, 22 April

今日は朝早く始まった。みんな7時ぐらいに国連の安全保障部門に行って、パスをもらいました。初めて国連の中に入って、すごく興奮した。田上長崎市長もお目にかかった。8時半ぐらいから、私たちはICANの「NGO Coordination Meeting」に参加した。昨日、一昨日の状況とこらからの予定を簡単に紹介した。9時から、「Government Briefing for NGOs:　Mexico」が行った。メキシコ代表団が発表してから、質問された。みんなの関心は主に非核地域やメキシコが次の会議を行うに関する問題である。

10時から国連の本会議のところに行って、オープニング・セッションに参加した。たくさんの代表団と会った。まずは委員会の主席の挨拶であった。まずは今回の会議のために、前の会議と準備を紹介して、北朝鮮の最近の状況を批評した。次に、NPT条約の意義や今後の仕事を述べた。続いて、各代表団が相互に協力し、前に向かって行って、会議の原則や目標や推進方法などをあげて、2015年の会議を推進しようと言った。それからペルーの大使を委員会の主席として選び、次の会議の場所と時間を決めた。4月28日から5月9日までニューヨークで行うそうだ。その後、一般討論演説に入った。非同盟運動と欧州連合とアラブ首長国連邦などの代表が発表した。私は初めての非同盟運動の発表を聞いた。目標を実現するために、核軍縮が一番重要なことで、今の遅い歩みに注目した。非核地域は一歩であるが、これは全面的に核兵器を削減する義務を代わりにできることではないことを強調した。

12時半に昼ご飯を食べた後、8人のメンバー一緒に明日の私達のセッションの準備や注意点をみんなで相談した。今朝のICANの様子を見て、経験を勉強し、明日の可能な状況を前持って準備した。

2時半にみんな国連の外で待ち合わせ、田上市長と共に、天野大使を表敬訪問した。広島市長、長崎市長は大使と話した後、私達ユースからも大使に質問した。

表敬訪問が終わった後、本会議に戻りました。いくつかの代表団の発言を聞いた。南アフリカやフィリピンなどは北朝鮮を批判したり、IAEAは中東非核地域を推進したり、イギリスは核軍縮を強調したり、ロシアはアメリカとの軍縮協力を紹介して、核能の平和利用を言ったり、キューバは核保有国がまず非核国家に対して、核兵器を使用しないことを保証させたり、中国はNPTはこの分野の基礎で、非核国家に対して、使用しない立場を表明し、発展途上国の核の平和利用を支援し、平和的に朝鮮半島とイランの核問題を解決するとし、他の核保有国と一緒に核分野の専門用語について、一致に達すると説明したり、スリランカも多角的な核軍縮を進ませると表明したりした。

今日は一日中いろいろなことを体験した。国連の中で、会議を参加することは本当に不思議であり、私にとって、すごく貴重な経験でもある。

(国連内会場の様子)　　(天野万利大使(左から3人目))

Go back to top

Sunday, 21 April

今日は一日中ICANの会議に参加しました。

今朝は9時から始まり、最初は昨日の地域による議論を各グループで報告した。ヨーロッパの代表から、中東地域、アフリカなどまで、別々に発表した。特にアフリカは自分が非核地域ということを紹介した。その中に、アジア太平洋の代表として、RECNAの中村准教授が発表した。政府との関係を議論して、いくつかの推進方法を話した。たとえば、被爆者達の言葉を紹介し、非核国家の経験や市民社会の力を借りて、政府へ影響を与える。

11時ぐらいから、次のセッションに入った。私は一番目のNational campaigningに参加した。このセッションの多くの参加者はノルウェーの人で、彼らは今までたくさんのことをしたが、またすべきことが多くある。そして、全員がICANに入る必要はないけれど、さまざまな組織がお互いに協力すべきだという意見がある。メデイアからの注目が少ないという人もいる。また多くの人、特に若者を励まし、ネットだけでなく、社会を出て、生きている人々と交流すべきだという観点を持つ人もいる。

昼食後、全体的なセッションに入った。主な中心は目標を実現するために、そのフォーラムをどう使うかいいかということだ。その後、二人の若者が発表した。テーマは「Counting to zero」。最後に、二人の担任の人がサマリーをした。

(発言をするRECNA中村准教授)

Go back to top

Saturday, 20 April

RECNAの中村桂子准教授とともに、ICANという核兵器廃を目指す非政府組織が行う会議に参加した。

朝10時から始まって、まずは組織方面からの挨拶で、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、そして、アジアからの人々が参加しているのが分かった。多くの参加者は若者である。この点は私にとって印象的だった。

次に「メキシコ会議が成功するために、ICANは何をすべきか」を中心として、ICANのメンバーが話をした。メディアの役割を強調したり、ただ物語りを述べるではなく、人々に核兵器の恐ろしさを感じさせるべきだなど。続いて、皆が議論に入った。主な中心はメキシコ会議の成功するための努力だが、ほかの問題もあった。例えば、ICANとほかの組織の関係や、別々のアンケート調査などを紹介するなど、いろいろあった。

午後は4時半ぐらいから地域による議論に参加した。私たちはアジア太平洋のグループに参加した。非政府組織が政府と交渉するために、どうすれば良いかや、核の傘の国として自分の国の政府にどう交渉すべきか、核兵器の非人道性を強調する等、いろいろ話をした。最後に、みんな一人一人で発表した。

今日は初めの日で、興奮して、いろいろ参加した。すごくいい経験で、よかったと思う。

(ICAN会場)

Go back to top

このページのトップへ

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/activities/blog2013/haruka

Haruka's Blog

Wednesday, 1 May

ナガサキ・ユース代表団に参加できることになってから、あっという間の日々だった。共同代表に決まって悩んだ時期や、ワークショップをすることになってから夜遅くまで大学に残ってみんなで準備したこと、英語力不足からくる不安、過ぎて行く時間の中でその時はとても辛いと思ったことでも、今思うと全てそれは必要なことだった。

ジュネーブに来てから、様々な人と出会った。核廃絶に向けて活動している様々なNGOの人たち、政府関係者、記者、そして私たちと同じこの問題について学びに来た学生たちと出会って話せたこと、核問題の中でも特に興味を惹かれた分野を研究している人たちに話を聞けたことが、私にとってかけがえのない経験となった。

また、課題もたくさん見えてきた。なかでも私が一番感じたことは英語力の無さだった。「はるかはどう思う？」と聞かれた時にスムーズに答えられなかったことが、とても悔しかった。

学んだことや感じたことをきちんと全員で整理して、必ず来年に繋げたい。そして出来るなら一年間勉強して、もう一度この会議の場に戻ってきたいと強く感じた。

このような機会を与えてくださった、支えてくださった全ての人に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

Go back to top

Monday, 29 April

今日は「SAKURA project」の仕上げを行なった。政府関係者にもプロジェクトを説明し参加してもらおうということになり、昼の休憩時間を狙ってアプローチしてみた。

忙しいからと断られた国もあったが、ニュージーランドとイェメンは快く参加してくれた。しかし、ロシアの政府関係者に聞いてみたところ、はっきりとこのメッセージ ”Nuclear Weapons Kill What You LOVE” に賛成するのは難しいと言われた。

NGOの人たちは個人の意見で参加してくれたが、やはり政府関係者となると、自分の言動に責任を持たなければならないのだと思った。ただ、全く賛同できないと言われたのはロシアの姿勢がそうであるということなので、とても残念だった。

Go back to top

Thursday, 25 April

今日はPEACE BOATの共同代表である川崎哲さんと少しお話をすることができた。今回の核兵器の非人道性に関する声明に日本が署名しなかったこと、現代の傾向に基づいた核廃絶へのアプローチの仕方、パレスチナ問題、各国の外交についてなど様々なことについて話してくださった。

PEACE BOATの活動のなかで、船で被爆者と一緒に世界を旅する企画を行なったそうだ。ジュネーブに来てから何度か感じていることだが、核廃絶に向けて活動している人でも被害の実状を知らなかったりする。全世界の人々に被爆者の想いを直接聞く機会をそうやって作るのはとてもいいと思った。

午後からはユースの2人が企画した「SAKURA project」を行なった。これはひとりひとりに大切なものや大切な人をサクラ型に切った画用紙に書いてもらい、「Nuclear Weapons Kill What You LOVE」というメッセージを共有してもらおうというもの。加えて長崎や広島の原爆の被害のデータと被爆者の証言（英訳）も配布した。とてもいい活動だとたくさんの声をいただいた。また、サクラに協力してくれた人たちひとりひとりと、自分は何をしているのか、出身国の核問題に対する姿勢を聞くことができた。ワークショップやレセプションとはまた違った形で人との繋がりをつくれたことが嬉しかった。

Go back to top

Wednesday, 24 April

今日はジュネーブにある日本人補修学校に訪問し、5・6年生に平和授業を行った。時間どうりに終わらなければならないなか、機材の不具合により時間が押すなどのトラブルがあったが何とかやり遂げることができた。

吉田勝二さんの被爆体験講話をもとにした紙芝居の読み聞かせでは、子供達がとても真剣に話を聞いてくれていた。

子供達は長崎や広島で行われているような平和学習はまったくなく、今回被爆体験講話や原爆について聞いたのは始めての子がほとんどだという。原爆についての知識、被害の実状を知らずに育ってしまう子供達がたくさんいる。まずは知ってもらうことが大切だと改めて感じた。

また、今日は南アフリカ政府による核兵器の非人道性に関する共同声明が７０カ国以上の署名をえて発表された。残念ながら、日本政府は今回も声明への著名を拒否したそうだ。

それに対しジュネーブでは、午後から抗議運動が行われていた。

夜の天野大使や外務省の方々、長崎市長との会食で話を聞いたところ、その声明には訂正して欲しい箇所が幾つかあり、それらを直してもらうように要請しているそうだ。次の声明には前向きな姿勢であって欲しいと思う。

Go back to top

Tuesday, 23 April

今日はNGOルームでワークショップを開催した。軍縮教育家のキャサリンサリバンさんが作成された原爆の被害と福島の原発に触れたfilmの上映とそれについてのディスカッション、RECNAサポーターズ作成の長崎からのメッセージfilmの上映を行った。来場者は30 名弱で中には私たちと同じ学生もいた。

来場者から、話で聞いていただけの被害の実状を実際にfilmで見ることができたのでイメージがクリアになった、見ることが出来てよかったいうコメントをもらった。キャサリンさんをはじめ、長崎に残っているRECNAサポーターズや先生方の多大な協力があって実現できたこの企画、やって良かったと心から思えた。

ディスカッションでは英語力の乏しさからうまくいかないこともあった。反省点も経験もいかして、次の活動に繋げていきたい。

Go back to top

Monday, 22 April

今日からいよいよNPT再検討会議準備委員会が開催された。

先ずは朝から、NGOルームでのセッションに参加した。朝早くからのセッションにもかかわらず、白熱した議論が行われていた。一方、メイン会議では、思った以上に各国の政府代表の集まりが悪かったり、理由はわからないが開始時刻が予定よりも1時間ほど遅れたことから、それぞれの国によってNPTへの関心に差があると感じられた。

午後は、軍縮会議日本政府代表部特命全権大使である天野大使にお会いすることができた。今週、南アフリカから核兵器の非人道性に関する共同声明が出される予定であり、日本はその賛同を求められている。日本政府の意向をお聞きしたところ、現在慎重に精査中とのこと。被爆国である日本が先導してそのような活動をしていないことには、正直もどかしく思うし、今回は前向きな決定をしてもらいたい。

その後、広島、長崎市長の国連欧州本部のトカレフ事務局長への表敬訪問に同行させていただいた。トカレフ事務局長は出身が核実験が多く行われたカザフスタンということもあり、核廃絶に対してとても積極的な方で長崎や広島の意向にも前向きに検討してくださった。このような場に同席でき、とても貴重な経験をすることができた。

(国連内・本会議会場)

(国連の外観)

Go back to top

Sunday, 21 April

地元のNGO団体が企画してくれたICANのミーティング後のレセプションに参加した。この2日間で顔見知りになったり、名刺を交換した人たちとたくさん話すことのできるとてもいい機会であった。4世代に渡る人々が集ったということで、会場の雰囲気がとてもイキイキしていた。様々なNGO団体の人たちと交流ができたり、23日のセッションのことやレクナやユースの紹介ができたり、facebookで繋がりを持てたりと私にとってとてもいい経験になった。私は主に若い人たちと話したが、彼らは他国の大学院に進みもっと国際関係や国際法について学ぶのだと言っていた。彼らの先を見据えて自分のことをしっかりと考えた上で核問題に取り組む姿勢は、私を含め日本の若者が見習うべきだと感じた。スイスにきて、私たちの活動は始まったばかりである。もっといろいろなことを吸収していきたい。

Go back to top

このページのトップへ

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/activities/blog2013/youth

Youth Blog 2013

このページはナガサキ・ユース代表団のfacebookをアーカイブしたものです。

Wednesday, 1 May

2015年NPT再検討会議第2回準備委員会
【7日目：4月30日】

①クラスター2特定問題：
・日本
・アメリカ
・イギリス
・韓国
・オーストラリア
・イラン
・日本
・バーレーン
・シリア
・サウジアラビア
・アルジェリア
・ブラジル
・韓国
・レソト
・メキシコ
・モーリタニア
・ドイツ
・クウェート
・マレーシア
・カタール
・ニュージーランド
・ヨルダン
・スペイン
・ポルトガル
・オランダ
・リビア
・インドネシア
・オーストラリア
・スーダン
・スロバキア
・チェコ
・イタリア

・ギリシャ
・ナイジェリア
・中東会議ファシリテーター・ヤッコ・ラーヤバ大使(フィンランド)

②クラスター3議題
・非同盟運動(NAM)
・EU
・オーストラリア
・フランス
・イギリス
・ロシア
・イラク
・日本
・マレーシア
・韓国
・中国
・スイス
・アメリカ
・ニュージーランド
・メキシコ
・南アフリカ
・インドネシア
・アルゼンチン
・フィリピン
・イラン

Go back to top

Tuesday, 30 April

2015年NPT再検討会議第2回準備委員会
【6日目：4月29日】

①クラスター2議題：
・ノルウェー
・エジプト
・オーストリア
・チリ
・チェコ
・オーストラリア
・スペイン
・カナダ
・メキシコ
・トルコ
・オランダ
・南アフリカ
・ナイジェリア

・アイルランド
・アルゼンチン
・フィリピン
・イラン
・ウクライナ
・ブラジル
・レソト
・アラブ首長国連邦
・アルジェリア

②クラスター2特定問題：
・フィンランド
・イギリス
・チュニジア(アラブグループを代表して)
・インドネシア(NAMを代表して)
・ロシア
・イギリス
・トルコ
・アラブ連盟
・ペルー
・スイス
・EU
・イラン
・南アフリカ
・イラク
・アイルランド
・日本
・中国
・レバノン
・フィリピン
・モロッコ
・フランス
・カナダ
・エジプト

Go back to top

Friday, 26 April

2015年NPT再検討会議第2回準備委員会
【4日目：4月25日】

①クラスター1議題：
・マレーシア
・韓国
・アメリカ
・オーストリア

・インドネシア
・ロシア
・中国
・日本
・タイ
・ニュージーランド
・スイス
・カナダ
・スロバキア
・オーストラリア
・ノルウェー
・チリ
・カザフスタン
・トルコ
・スペイン
・アイルランド
・アルゼンチン
・フィリピン
・シリア
・アルジェリア
・日本(核軍縮・不拡散教育について)
・ブラジル
・イラン
・フィンランド

②クラスター2特定問題：
・アルジェリア
・マレーシア
・非同盟運動(NAM)
・フィリピン
・アメリカ
・日本
・アルゼンチン
・オーストラリア
・フランス
・南アフリカ

Go back to top

Friday, 26 April

私たちはジュネーブ日本語補修校を訪れ、小学校高学年の生徒たちに平和学習の授業を行いました。
被爆者の証言を元にしたの紙芝居をしたり、ジュネーブに長崎の原爆が落ちた時のキノコ雲の仮想3D写真などを用いて授業を行い、実際、子供たちもとても興味を持って話を聞いてくれていました。

この日は、日本政府が南アフリカの宣言に署名せず残念な結果となりましたが、これから子どもたちと共に、平和な世界に向けて歩んでいきたいです。

We visited Japanese complementary school at Ganeva and had a lesson to tell what is peace for 5 and 6th grade students.

We showed Kamishibai about testimony of Hibakusha and the 3D virtual pictures of mushroom cloud as if the atomic bomb is dropped on Geneva.The children got to be interested in our story very much.

It was a pity that Japanese government didn't sign the statement by SouthAfrica:"Deeply concerned about the catastrophic humanitarian consequences of nuclear weapons" Japanese government didn't sign because of this phrase:"It is the interest of the very survival of humanity that nuclear weapons are never used again, under any circumstances."

However, we will try to do our best with children toward Nuclear free world.

Go back to top

Thursday, 25 April

2015年NPT再検討会議第2回準備委員会
【3日目：4月24日】

①NGOの意見発表：
・イントロダクション(WILPF)
・核兵器の見直し(BASIC)
・広島市長の訴え(松井市長)
・長崎市長の訴え(田上市長)
・ヒバクシャ(藤森俊希(日本被団協))
・若者のスピーチ(BANg/NAPF)
・NGOのパネル討論

②一般討論：
・ガーナ
・ナミビア
・モロッコ
・クウェート
・アルゼンチン
・オーストリア
・南アフリカによる核兵器の人道的側面に関する74か国共同声明
・アルジェリア
・OPANAL
・赤十字国際委員会(ICRC)

③クラスター1議題：
・非同盟運動(NAM)
・EU
・新アジェンダ連合
・Dealerting Group
・軍縮・不拡散イニシアティブ
・メキシコ
・エジプト
・フランス
・イギリス
・ポーランド
・イラク

Go back to top

Thursday, 25 April

「核兵器の人道的側面に関する74か国共同声明」を南アフリカが発表しました。
非常に残念ですが、日本は賛同しませんでした。。。

The Government of South Africa released the Joint Statement on the humanitarian impact of nuclear weapons.
We are terribly sorry that Japan did not agree with the statement.

Go back to top

Wednesday, 24 April

Message from NAGASAKI produced by RECNA supporters.
This video was showed in the end of the workshop, organized by Nagasaki Youth Delegation.
http://www.facebook.com/photo.php?v=643235729036765

Go back to top

Wednesday, 24 April

田上市長も長崎市長として、そして平和市長会議代表として演説を行いました。
また、若者代表としてBANg(核兵器禁止若者ネットワーク)とNuclear Age Peace Foundation(核時代平和財団)の代表も演説を行いました。

その演説の中の一文
「We have not experienced the same suffering as the Hibakusha, but we can imagine the inhumanity of these nuclear weapons by listening to their testimonies.」
(私たちは被ばく者と全く同じ経験はしていませんが、被ばく者の証言を聞くことによって、どれほど核兵器が非人道的なものであるか想像することは出来ます。)

これは、私たちナガサキ・ユース代表団からのメッセージです。
私たちも若者の一員として、演説の原稿作成に参加することができました。
一人でも多くの方に私たちのメッセージが届くことを期待します。

若者代表の演説原稿はこちらから見れます。
http://papersmart.unmeetings.org/media/1428278/youth_speech.pdf

Go back to top

Wednesday, 24 April

2015年NPT再検討会議第2回準備委員会
【2日目：4月23日】

①一般討論：
・スウェーデン
・デンマーク
・マレーシア
・カザフスタン
・ベラルーシ
・アイルランド
・ネパール
・オランダ(NPDI(軍縮･不拡散イニシアティブ)代表して)
・オランダ
・ブラジル
・イラン
・イラク
・キルギス
・エクアドル
・ベルギー
・スペイン
・ノルウェー
・カナダ
・リトアニア
・ウガンダ
・ヨルダン
・韓国

・メキシコ
・レソト
・バングラデッシュ
・シリア
・ケニア
・コスタリカ
・ナイジェリア
・CTBTO(トート事務局長)
・カタール
・チリ

Go back to top

Tuesday, 23 April

2015年NPT再検討会議第2回準備委員会
【1日目：4月22日】

①議長選出：コーネル・フェルーツァ大使(ルーマニア)
②挨拶：コーネル・フェルーツァ議長
③アンジェラ・ケイン国連軍縮問題高等代表の挨拶

④手続事項の決定
・第3回準備委員会(来年)の日程：2013年4月28日～5月9日
・第3回準備委員会(来年)の場所：ニューヨーク

⑤一般討論：
・イラン(NAM(非同盟運動)代表して)
・EU
・アラブ首長国連邦
・チュニジア
・ブラジル(新アジェンダ連合代表して)
・オーストラリア(Vienna Group of 10代表して)
・エジプト
・アメリカ
・スイス
・オーストラリア
・ペルー
・トルコ
・エストニア
・フランス
・ニュージーランド
・日本
・南アフリカ
・IAEA(国際原子力機関)
・イギリス
・ロシア

・キューバ
・中国
・スリランカ
・ルーマニア

Go back to top

Tuesday, 23 April

Today's afternoon, we had our session 'Ultimate Wishes.' Over 30 people came to our work shop.

At first, we introduced about ourself and then show them the film 'Ultimate Wish', which is document program about HIROSHIMA-NAGASAKI and Fukushima. During showing the film, all participants watched it hardly.

Then we discussed each other. 「What did you feel from this film?」
Someone said I've never seen and hear about Hibakusya stories, someone said we should understand deeply what is happend in 1945 in Japan.

All groupe had a good discussion and they can receive our message.
Thank all participants for coming to our workshop(^o^)/

Go back to top

Tuesday, 23 April

たった今、ワークショップが終わりました。詳細な報告は後ほどアップしますね。

Go back to top

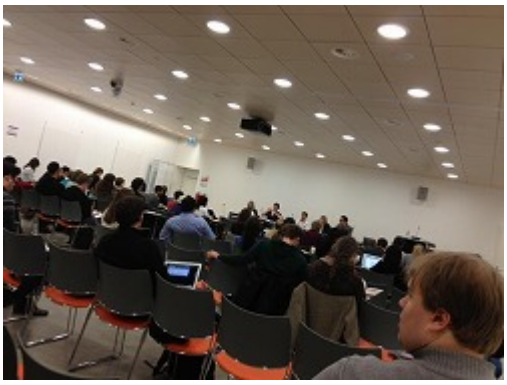
Tuesday, 23 April

本日、サイドイベントにてユース主催のワークショップを行います!
（現地時間：23日13時15分/日本時間：23日20時15分）

We will have a side event today. We look forward to seeing you there!
Time: 13:15-14:45
Place: Room XVI

Go back to top

Sunday, 21 April



Bonjour!
本日、無事8人全員がジュネーブに揃うことができました！

私達は昨日から2015年NPT再検討会議第2回準備委員会に先だって行われた、ICANの[Agenda ICAN campainers meeting]　に参加しました。

今回はオスロ会議に引き続き、6月に行われるメキシコでの会議に向けた、ICANの活動戦略について、世界各地の人と議論を交わしました。英語での理解やコミュニケーションに加え、このキャンペーンに精力的に取り組んでいる方々の中で議論することは、専門的な知識が問われ、非常に難しかったです。

明日からは、いよいよ国連でNPT再検討会議第二回準備委員会に参加してきます！
ブログのほうでも、報告させていただきますのでご覧ください。
/recna/nagasaki-youth/activities/blog2013/
（担当：斉藤・江島・下田）

Bonjour!
Finally, we all arrived at Geneva today!

We have participated in Agenda ICAN campaigners meeting before NPT PrepCom since yesterday.

First of all, there was a discussion about Oslo 2013; humanitarian consequences of nuclear weapons and its follow up conference which will be held in this year in Mexico. It was challenging for us to have discussions in English among those who are highly passionate to make actions to this issue. They need to understand technical terms.　But we made many efforts to understand.

The conference starts from tomorrow.
It is a great honor for us to participate in this conference.
(Yuko, Ken and Anna)

Go back to top

このページのトップへ